

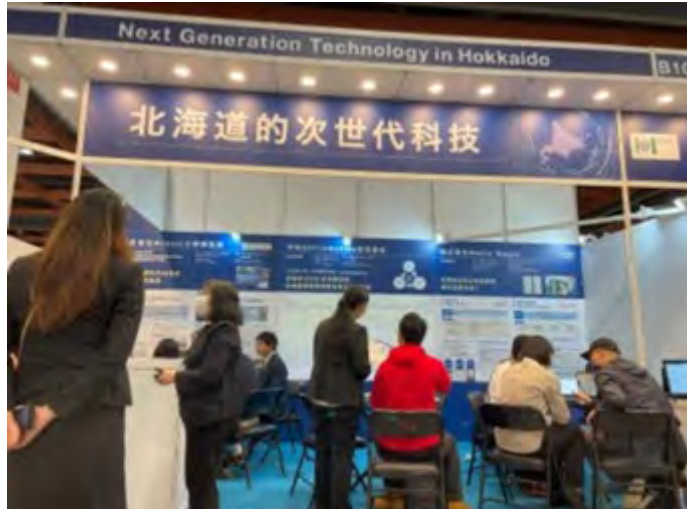
事業概要：北海道観光の再構築と地域の魅力を活かし人を呼び込む北海道づくり

旧制度（推進）

申請者	北海道	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	521,702千円 (89,473千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野
目的・効果	観光誘客促進を図るためのマーケティングデータの収集・分析や道内観光に求められるニーズの多様化を受けた、誰もが安全・安心に道内旅行を楽しむことができる環境の整備などを行う。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 北海道ならではのワーケーションのデジタルマーケティングや観光コンテンツのプロモーションへの取組、移住・定住の促進に向けた相談体制のボトムアップやリピーター等への調査・分析を実施。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ○国内旅行へのシフトにおける課題への対応 ・ワーケーション等のデジタルプロモーション 2,823千円 ○観光コンテンツの磨き上げにおける課題への対応 ・バリアフリー観光等の案内窓口の構築、情報発信 19,873千円 ・国内外で競合する他地域の施策分析結果の活用 4,167千円 ○移住・定住の促進における課題への対応 ・移住に関心を持つ層に対するデジタルプロモーション、相談体制の定着 32,610千円 ・リピーター等の旅行時における意識・消費行動等の調査・分析結果の活用 30,000千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①長期滞在者数（+400,600人） ②北海道の移住・定住情報を発信するサイトのアクセス数（+4,012件） ③国内観光客の総観光消費額（+2,521.9億円）		URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/csr/jinkou/244042.html

事業概要：高度外国人材に選ばれるほっかいどうイノベーション創出事業

旧制度（推進）

申請者	北海道	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	180,260千円 (57,239千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的・効果	世界でも注目されるアジアのIT開発拠点となる国々の高度外国人材を北海道に結集させることで、彼らの持つ高度な知識・技術を本道に結集、全道域に効果を波及させ、広域分散型の地域課題と未来技術を掛け合わせた先進的な実証事業の実施を通じて、地域の実情にあった実装を推し進め、道内全域さらなる技術・サービスの高度化といったイノベーション創出を行う北海道を目指す。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 海外IT企業との商談機会の提供や先進技術活用によるイノベーション創出への取組、道内デジタル関連産業のための高度外国人材活用向け現地セールス等や、道内企業への同人材活用の普及啓発を実施。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ○道内におけるイノベーション機会創出 ・海外企業とのマッチング会開催等（負担金 4,872千円） ・専門知識を有するコーディネーターによるコンサルティングや自治体と企業のマッチングイベントの開催（委託料 26,290千円） ○高度外国人材に向けた現地セールス・現地大学のセミナーの開催 ・現地大学等とのネットワーキング、セミナー交流会の開催（委託料11,722千円、事務費 120千円） ・多言語（3カ国語）による北海道の仕事・生活環境のPR動画配信、現地送出機関へのPR（委託料 6,066千円） ○道内企業向け高度外国人材活用に向けた普及啓発 ・道内IT企業に対し、高度外国人材採用・定着に向けた対策や成功事例を学ぶセミナーやシンポジウム開催等（委託料 8,109千円）		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における新規雇用者数（+36人） ②本事業により創出されたマッチング数（+18件） ③本事業により新たに外国人材の確保に向け取組を行う道内企業数（+64社）	URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/csr/jinkou/244042.html

事業概要：新たな戦略作物による北海道農業の持続的成長と販路拡大事業

旧制度（推進）

申請者	北海道	初回採択回	令和6年度第1回募集	
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	88,818千円 (31,120千円)	
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	農林水産分野	
目的・効果	「新たな戦略作物」として生産の拡大が期待されている作物の道内各地への技術の普及を図る。 道外での催事や外食事業者向けの産地見学会を開催し、新たな戦略作物の認知度を向上させる。 北海道が運営するアンテナショップと全国の大手小売店との連携により、道内事業者の道外市場への販路拡大を図る。			
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 新たな戦略作物を使ったメニューフェアや意見交換会・現地見学会による認知度向上・需要拡大等に向けた取組、大手小売店との連携やどさんこプラザの活用による販路拡大等の取組を実施。		   	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○認知度向上・需要拡大・新技術普及 ・道内外の飲食店における新戦略作物を使ったメニューフェアの開催（委託料：6,063千円、事務費：112千円） ・外食事業者を参集し、意見交換の開催（事務費：71千円） ・外食事業者向けの産地見学会の開催（事務費：170千円） ○道内事業者の販路拡大に向けたマーケティング支援強化事業 ・全国の大手小売店等と連携し、期間限定の北海道どさんこプラザのテスト出店。道内の中小・小規模事業者の商品のテスト販売（委託料：24,540千円、事務費：164千円）			
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①農業産出額（＋249億円） ②本事業により取り扱った新たな戦略作物や加工品の品目数（＋670品目） ③無加温栽培技術取組農家戸数（＋25戸）		URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/csr/jinkou/244042.html

事業概要：道内食産業強靱化プロジェクト

継続

申請者	北海道					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	489,650千円 (163,214千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	IoT、AI等を活用したマーケティングやブランディング展開等を行うことにより、事業者の売上向上を図る。 省人化・低コスト化による業務効率化を行うことにより、生産性を高め、経営基盤を強化する。 環境負荷低減に関する支援を通じ、エネルギーや資源の使用量を削減することで、事業者の収益性を高める。 農業現場における食産業事業者の研修等を通じた道産原材料の利用を促進し、持続可能な食産業の発展を目指す。 事業者の環境に配慮した取組、地域資源の魅力を発掘することにより、国内外での競争力の強化を図る。 GMP（適正製造基準）に対応した食の安全性向上の取組を支援することにより、道産健康食品のブランド確立を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 IoT、AIの活用等による食品製造事業者の経営基盤強化のための取組、エネルギー等使用量削減等による環境配慮や製造工程の安全性を担保する取組への支援を実施。信頼性の高い健康食品ブランドの確立と環境に配慮した各地域取組・地域資源等の魅力発信の強化により、本道食関連産業の競争力と持続可能性を高める。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・食品製造事業者の経営基盤の強化 時代の変化に対応した経営者の育成による経営力の向上 37,803千円 道内食品製造事業者に対する人材育成による効率的な作業の実現 31,545千円 ・持続可能な食産業の構築に向けた支援 環境に配慮したブランドイメージの発信 35,553千円 食品製造工程の安全性を担保する取組 34,202千円						
主なKPI	①地域における食品出荷額（+2,209億円） ②地域における食品付加価値額（+195億円） ③本事業に参画した事業者の従業員一人当たり売上高（+360万円） ④本事業に参画した事業者の安全性認証の新規取得数（+3件） ⑤本事業における環境負荷低減に係る支援件数（+15件） ⑥本事業にて認定された商品に対するふるさと納税寄付件数（+505件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/csr/jinkou/244042.html

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

事業概要：商社機能を活かした地域経済活性化事業

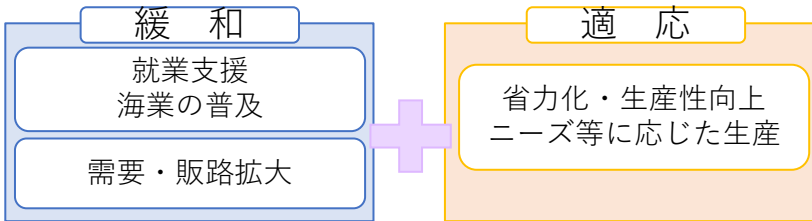
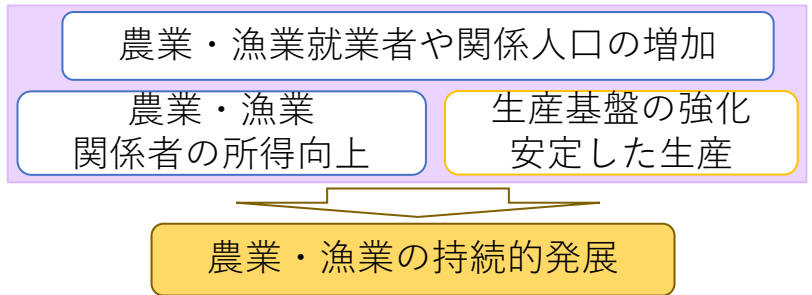
継続

申請者	北海道					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	434,107千円 (144,363千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	物産協会が商社機能を担うことを目指した取組を支援することにより、地域が主体となった食産業の自立的な発展を目指す。 地域商社と連携し、より実践的な輸出人材の育成を支援することにより、輸出事業に取り組む事業者の拡大を目指す。 地域商社や現地有力企業等と連携した北海道ブランドの発信により、現地でのブランド浸透・定着を目指す。 現地有力企業と連携した消費者ニーズや関心ターゲット層の調査を実施することにより、より効果的な販路拡大を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 販路を開拓していく力を育成することにより、主体的に稼ぐ力を高めるほか、アジアを中心とした新興国への道産食品の輸出増など、本道に対する関心の高まりといった好機を確実に捉え、旺盛な海外需要を取り込むための事業を実施。現地企業との連携による販売ルートの構築や消費者ニーズの把握を通じて、北海道ブランドの認知度向上や販路拡大を図り、地域事業者の競争力を高める						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・域内連携による商社機能の強化 道外市場に向けた商品提案・販売機会の創出 52,951千円 輸出に取り組む事業者の育成・ビジネス支援 32,787千円 ・商社機能を活かした販売ルートの構築 現地有力企業等との連携による需要創出 33,684千円 現地の消費者ニーズの把握 24,941千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における道産食品輸出額（+90億円） ②本事業に参画する道内事業者の取引額（+3,570万円） ③本事業に参画する道内事業者の商談成約件数（+45件） ④本事業を通じて輸出に取り組む事業者数（+150人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/csr/jinkou/244042.html

事業概要：北海道における持続可能な観光地づくり

継続

申請者	北海道					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	172,303千円 (59,101千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	観光客向けマナーブック等を整備し、周知することで、オーバーツーリズムの影響緩和を図る。 地元住民や観光業・宿泊業者などに対して満足度調査を行い、持続可能な観光地づくりの施策へつなげる。 地域の二次交通課題解決に向けた事業や、持続可能な観光地づくりのための国際認証取得に向けた事業などに対する補助を通じ、世界的な観光ニーズに適合し、将来においても選ばれ続ける観光地を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 オーバーツーリズム対策やCO2削減に資する交通手段の環境整備等の取組支援などにより、観光の質を向上させるとともに、国際認証取得や地域偏在解消などを推進し、地域と旅行者の双方が観光のメリットを実感できる「住んでよし、訪れてよし」の観光地づくりを目指すための事業を実施。地域経済の活性化と持続可能な観光地づくりを進め、道内各地域の魅力向上を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・持続可能な観光地づくり推進事業 道内各地のオーバーツーリズムの影響緩和に向け、北海道観光地域に特化した観光客向けマナーブックの作成及び周知 3,988千円 北海道における持続可能な観光地づくりに向け、地元で受け入れる住民や観光業・宿泊業などの経営者・従業員に対する満足度調査を実施 5,113千円（委託料） ・地域観光環境整備促進事業 地域が主体的に行う業務の効率化・DX化や二次交通整備及び持続可能な観光地域づくりなどの取組を支援 50,000千円（補助金）						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①総観光消費額（+5,127億円） ②道央圏以外の地域での宿泊者数割合（+3%） ③持続可能な観光地域づくりに取り組む地域（国際認証・表彰地域）数（+4地域） ④業務のDX化や二次交通整備及び持続可能な観光地域づくりに取り組む事業者の数（+29者）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/csr/jinkou/244042.html

申請者	北海道					初回採択回	令和7年度第1回募集	
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	563,703千円 (187,000千円)	
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業			
目的・効果	「農村漁村で仕事をする」、「農村漁村で暮らす」ための環境づくりにより、担い手の減少を「緩和」させるとともに、デジタル技術や新技術の活用による生産性の向上により、人口減少社会への「適応」を進め、人口減少下においても発展を続ける農村漁村を構築し、本道が我が国の食料供給地域としての役割を果たすとともに、地域の基幹産業として一次産業の持続的発展を実現させる。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 担い手減少の「緩和」に向けた農村・漁村の環境づくりを推進するため、担い手の受入体制の整備や北海道の食文化をPRするフェアを開催し、インバウンド需要を活用した販路拡大による所得向上の取組を実施。また、人口減少社会へ「適応」するため、デジタル技術や新技術の活用による限られた労力においても生産性の向上を図る取組を実施。							
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業経費 ・農村・漁村地域に人を呼び込む体制づくり 農村・漁村地域に魅力を感じている人への効果的な就業に繋がる方法の構築 17,954千円 新たな地域資源を活用した取組創出に向けた支援 1,101千円 ・北海道ファンを通じた販路拡大による生産者の所得向上 インバウンド需要の確保から販路拡大への産地の確立 125,193千円 ・生産性向上を通じた農業・漁業の生産基盤の強化 スマート技術の効果を最大限発揮できる生産方式や新技術活用方法の確立 15,934千円 消費者ニーズを的確に捉えた効率的生産体制の構築 26,818千円							
主なKPI	①道における農業・漁業産出額（+120億円） ②輸出に取り組む道内農業協同組合数（+6組合） ③農業・漁業の新規就業者数（+82人） ④道内港からの道産水産物・加工物輸出額（+99.6億円）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/csr/jinkou/244042.html	

事業概要：北海道のさらなる発展を支える生活交通サービス実現事業

継続

申請者	北海道					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	119,438千円 (44,502千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	まちづくりの土台となる生活交通サービスを持続可能な形で維持・確保し、全道各地に更なるまちの賑わいを創出するため、公的支援の在り方の再整理、利便性の向上と最適化の促進に向けたデータ連携基盤の整備、外国人材・ライドシェアといった新たな取組の検証などを実施。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 まちづくりの土台となる生活交通サービスの利用状況や地域のニーズを調査し、持続可能な形で維持・確保し、全道各地に更なるまちの賑わいを創出するため、公的支援の在り方の再整理、利便性の向上と最適化の促進に向けたデータ連携基盤の整備、外国人材の活用や研修の推進・ライドシェアといった新たな取組の検証などを実施。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・生活交通サービスの在り方検討 17,860千円 支援の在り方等の検討 複数市町村間での公共ライドシェア等の運用実証 ・データ連携基盤整備 21,235千円 移動関連データのシステム検証、データ連携基盤の構築 ・自動車運送業外国人材受入環境整備促進事業 5,407千円 自動車運送業における外国人材の活用に向けた研修や意見交換会を実施						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①道内における乗合バス輸送人員（±0千人） ②道内におけるハイヤー・タクシー輸送人員（±0千人） ③道内における広域交通の平均収支率（±0%） ④雇用が充足しているバス事業者の割合（+12.3%） ⑤自家用有償運送に取り組む市町村数（+3.0自治体）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/csr/jinkou/244042.html

申請者	北海道					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	98,628千円 (32,876千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	進行する人口減少の緩和を図るため、AIチャットボットやメタバース空間といった、場所や時間を問わず気軽に活用できる環境の整備を行い、本道の情報を包括的に発信することで、新たな移住・関係人口施策を展開し、若者や女性に選ばれる地域づくりに取り組み、全道的な地域経済の活性化・にぎわいの創出につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 AIチャットボットの導入により、場所や時間を問わず気軽に活用できる環境を整備し、より多くの移住相談対応を可能にするほか、移住関心層に対し、道内各自治体の移住関連情報（仕事、住まい、地域の特色等）をこれまで以上に幅広く発信することにつなげる。 また、道外に在住していながらも、「北海道と何かしらの形で関わりたい」・「北海道と繋がりたい」と思っている方が気軽に道内のあらゆる情報（観光・ふるさと納税・道内自治体の取組・移住定住等）に触れ、継続的な関係性をつくり出すことができる情報発信媒体として、メタバース空間を構築・運営する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・転出者等との継続的な関係性の構築 メタバース空間の通年運営や空間内での交流イベントの開催 4,076千円 国の「ふるさと住民登録制度」との連携の検討 ・移住関心層が抱える懸念や関心事項の適時適切な把握・分析 移住相談に対応した対話型AIチャットボットの開発や移住分析 18,412千円 AIチャットボットの相談内容の蓄積等によるニーズやエビデンスに基づくイベント・交流会の開催 10,388千円 「ふるさと住民登録制度」とAIチャットボットの連携による情報発信等の検討						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①道の相談窓口を活用して北海道に移住した移住者数（+60人） ②北海道の移住相談件数（+507人） ③AIチャットボットの利用件数（+405件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年11月公表予定

事業概要：北海道の基幹産業の未来を支える"ヒト"の確保推進プロジェクト

新規

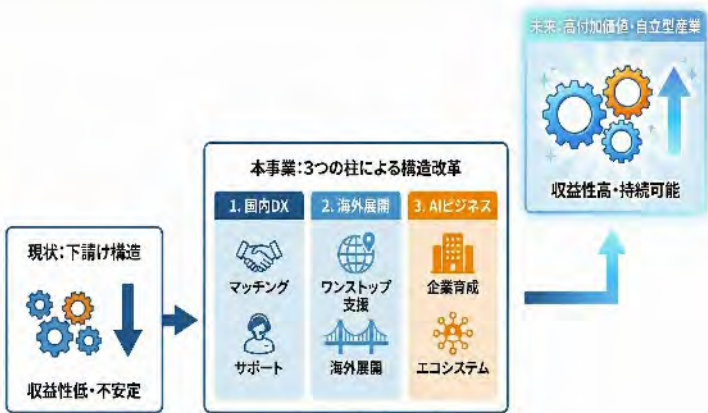
申請者	北海道					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	495,420千円 (165,140千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	本道の基幹産業である農業と観光業における深刻な人材不足・担い手不足を緩和・解消し、本道全体の地域経済の活性化や食料の安定供給を実現するため、観光業の魅力や農業の魅力を分野横断的に一体となって人材確保のための施策を推進し、道外への人口流出の防止や道外からの就業者増加に繋げる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 観光分野の「仕事」の周知と教育、仕事体験や企業マッチング等を実施するとともに、AI-DX技術を活用した農業の普及に向け、専門の人材を育成し、活用事例の横展開を実施することで、本道の基幹産業における深刻な人材不足・担い手不足の緩和・解消を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・観光人材確保対策事業 「仕事を知る」ための事業PRやセミナー等の開催や小中学生向け観光教育の実施 41,055千円 「仕事を体験する」インターンシップ受入コーディネートや体験教室・大学と連携した講義の開催 47,109千円 企業マッチングイベントや道内外大学・専門学校等との交流会の開催 27,011千円 職場定着のための人材育成研修や外国語ガイド研修の実施 35,444千円 ・農業分野のAI-DX推進事業 「水田・畑作・園芸・畜産」におけるAI-DX技術活用プログラムの実施や最新機械による実践研修、AI-DX技術の活用事例の横展開を実施 14,530千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①U・I・Jターンで道内で就業した人数（+150人） ②観光従業員の満足度（+25%） ③データに基づいた営農を行う経営体の割合（+21%）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年11月公表予定

申請者	北海道					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	452,499千円 (150,833千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・ラピダスを拠点とした半導体関連産業において、関連企業の道内誘致やエンジニアの育成・確保など、国家プロジェクトと一体となった事業を推進しながら、道内全域にその経済効果を波及させる。 ・次世代半導体等を契機とした投資拡大の流れを、特定地域にとどめることなく全道へ波及させることで、道内経済全体が活性化する姿を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 次世代半導体の製造拠点の立地を契機とした投資拡大の流れを本道全体の成長につなげるため、半導体関連産業の集積や道内への投資を促進するとともに、AIを始めとするデジタル技術を持つスタートアップ等の力を活用し、地域課題解決に取り組む。					 ©Rapidus株式会社・鹿島建設株式会社	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・半導体関連産業の集積に関する事業 道内への半導体関連企業の誘致や道内企業の参入促進・取引拡大に関する事業 16,694千円 半導体人材の育成・確保に関する事業 19,114千円 道民の理解と共感の醸成に関する事業 38,042千円 ・AIを始めとしたデジタル技術による市町村課題解決とスタートアップ支援事業 AI-DX関連企業（SU等）支援 49,169千円 ・海外活力呼び込み事業 海外企業・投資家の招へい 12,219千円 海外企業に向けたプロモーション 11,781千円 地域課題に応じた商談支援 3,814千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①本道に進出した半導体関連企業の拠点数（+9件） ②地域課題とAI・DX関連企業のマッチング支援数（+15件） ③本事業による海外から道内への投資に係る招へい件数（+42件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年11月公表予定

申請者	北海道					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	312,273千円 (112,321千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	本道では、冷涼な気候、ウポバイ（民族共生象徴空間）をはじめとするアイヌ文化や各地域の日本遺産・北海道遺産などを有する。それぞれの地域が持つ豊かな自然や特色ある文化を活かし、観光需要の分散化を推進するとともに、道内外客及びインバウンド需要の着実な取り込みを図ることで、地域の「稼ぐ力」の向上と経済循環の拡大を実現。道内全体の地域経済の維持・拡大につなげることを目的とする。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 スポーツキャンプの実施を契機とし、本道の地域特性を活用した取組を通じて、複数地域への周遊や継続的な来訪につながる多角的な人の流れを創出し、関係人口・交流人口の拡大を図るとともに、こうした人の流れを通じた宿泊や飲食等による観光消費額の増加を促進し、道内各地域の持続的な活性化を推進する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・プロサッカーチームキャンプ誘致事業 機運醸成イベントの実施 4,623千円 交流事業（サッカー教室）の実施 1,522千円 ・北海道の歴史・文化の魅力発信事業 アイヌ文化の体験・発信モデルを構築するための経費 32,122千円 担い手の育成と工芸品の販路拡大のための経費 43,554千円 赤れんが庁舎の魅力発信のためのデジタルコンテンツ実装経費 7,000千円 映像作成費及び展示品更新に係る経費 23,500千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①総観光消費額（+5,127億円） ②Jチームキャンプ誘致数（+15チーム） ③アイヌの人たちが長い歴史の中で民族としての独自の伝統や文化を培い、現在に至るまで伝えていることを知っており、興味を持っている割合（+6.0%） ④赤れんが庁舎入館者数（+180,000人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年11月公表予定

事業概要：札幌IT産業高付加価値化・強靱化プロジェクト

新規

申請者	北海道札幌市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	294,800千円 (37,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	本事業では、市内 I T 企業の販路開拓や、先端技術かつ高単価が見込める A I 開発を支援する点で付加価値を向上し、市内 I T 産業全体の振興を実現を目指す。事業分野「地場産業支援関連事業」の要件である「地場産業の付加価値向上や販路開拓等を支援し、地域経済の拡大を目的とする。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 札幌IT産業の「収益源の多様化と高付加価値化」を推進し、強靱な稼ぐ力を再構築する。①中小企業の需要を掘り起こすDX支援、②欧米企業との成約まで導く海外販路開拓、③AI企業の育成と受注機会創出を3本の柱として展開することで、先端技術と世界市場を融合させ、地域経済に高付加価値な循環を創出する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・市内中小企業を対象とした販路拡大・協業支援 市内中小企業とのマッチング支援：5,000千円 ・欧米企業を対象とした販路開拓・協業支援 欧米 I T 企業との契約締結支援：16,000千円 ・市内 A I 企業の育成・ビジネス創出 市内 A I 開発企業の認定制度、マッチング支援、オンラインプラットフォーム管理運営：16,000千円						
主なKPI	①市内 I T 産業売上高（+745億円） ②プライム案件（元請）及び海外直接案件の成約件数（+60件） ③今後力を入れていきたい分野としてAIと回答する企業の割合（+12.6%）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.sapporo.jp/keizai/top/topics/it/consortium.html

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

事業概要：人が輝きまちが輝く交流都市Hakodate"函光"プロジェクト

旧制度（推進）

申請者	北海道函館市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	39,244千円 (9,240千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野
目的・効果	・これまでアプローチしてこなかった中国人ミドルレンジ富裕層や欧米観光客をターゲットとしたプロモーションを展開し、本市の認知度向上および来函意欲の向上を図り、観光消費額の増加を目指す。 ・観光消費による経済波及効果や地域経済循環により、他産業や市民生活にも経済的な効果が波及するという好循環モデルの形成を図る。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 新たな観光客の獲得に向け、中国・アメリカ市場に対する観光プロモーションを実施するほか、本市観光の強みの一つである「食」に関する情報発信を強化する。また、主要観光地である函館山のオーバーツーリズム対策に着手し、観光の満足度・リピート率の向上に繋げ、観光客・観光消費額の増加を目指す。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ アメリカ市場プロモーション事業（委託事業） 3,390千円 ○ 函館山夜景魅力度向上事業 1,264千円 (函館山山頂混雑の分散化を図るライトアップ事業委託料) ○ 観光コンテンツ・食・水産物情報発信事業 - 食ポータルサイト委託料 4,114千円 - 水産物市場動画制作委託料 472千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①観光消費額（+420億円） ②観光客数（+750千人） ③観光客の平均宿泊数（+0.09泊） ④食ポータルサイト「おいしい函館」の月平均閲覧数（+1,500 P V / 月）		URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2016072600039/

事業概要：持続可能な地域経済推進事業

継続

申請者	北海道函館市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	67,879千円 (24,670千円)
事業類型	ソフト事業	✓	事業分野		インフラ整備事業		
目的・効果	デジタル技術等の活用により市内中小企業の生産性向上を図るとともに、それら企業の変革を支える人材の育成を併せて行い地域全体のDX化を推進するほか、「函館の食」を支える調理師の技術向上やスポットワークを含めた多様な働き方の副業での活用等により人手不足の解消を図るなど、総合的に取組を進めることにより、経済面で不安のない魅力的な職場を増やすとともに住民の所得向上を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 市内企業におけるDX化を図るための補助事業を実施するとともに、DX化に向けた人材育成を図るため、年齢層や難易度等を踏まえた最適な支援体制を構築するほか、「食の担い手」の育成に向けた取組や女性・高齢者等の潜在人材の活用を図り、若者をはじめとする多くの人に選ばれる持続可能な地域経済の推進を図る。					 企業のDX化  人材育成  潜在人材等の活用 生産性向上 人手不足解消 住民の所得向上 若者をはじめとする多くの人に選ばれる 将来にわたって持続可能な地域経済の推進を図る	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○DX推進支援事業 ・市内中小企業等に対する補助金 10,000千円 ○未来のIT人材育成支援事業 ・デジタルものづくり体験（委託料）4,000千円 ○産学連携推進事業 ・産学の連携強化を図るイベント開催（実施経費）315千円 ○「食の担い手」育成推進事業 ・調理師同士や生産者との交流促進イベント開催（実施経費）440千円 ○女性・高齢者等の潜在人材活躍推進事業 ・多様な働き方促進支援事業（委託料）6,952千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①納税義務者1人あたり課税対象所得（+247千円） ②当該事業による新規雇用者数（+140人） ③専門家派遣によるDX戦略策定完了数（+7件） ④「食の担い手」育成に係るイベントに参加する調理師数(+120人)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2016072600039/

事業概要：「食の実験区，旭川」 未来の食文化を創造する街プロジェクト

旧制度（推進）

申請者	北海道旭川市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 （カッコ内はR8年度事業費）	87,256千円 （33,300千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	農林水産分野
目的・効果	・フードフォレスト事業の取組により埋もれた素材の活用や食のバリューチェーン全体の稼働力の強化を図る。 ・クリエイターを支援するフードカリスト（触媒）の育成やクリエイティビティを刺激する体験の創出を図る。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 「食の実験区」づくりを進め、特に朝ごはんをテーマに、地元産米や新しい体験を活用し、ホテルや飲食店、農家など多様な事業者が参加しやすい仕組みを整える。また、クリエイター支援や市民参加を促進するとともに、地域の資源を生かした商品や体験を国内外に発信することで、旭川の食の魅力を高め、地域産業と連携しながら、新しい食の価値を創出し、世界に向けたブランド化を目指す。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ○料理人、クリエイター、事業者等と共創し、朝食イベントを新メニューや提供方法を試行できる実証の場として運営する。小ロットでの提供や運営手法の工夫により、参画事業者が主体的に実践と改善を行える環境を整え、フードフォレストの取組を具体的な事業活動として定着させる。（委託）6,500千円 ○市内で開催される食の大型イベントでフードフォレストに関係する出展ブースを適正配置して食の実験を行い、Designed in Asahikawaを浸透させる。（負担金）8,000千円 ○フードフォレスト事業の実践の場として、国内外の多様な市場との商談機会の創出を図る。（負担金）6,600千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①地域における青果物販売額（+55百万円） ②開発商品，サービス等の売上（+1.27億円） ③旅行消費額（+21千円／人） ④事業に参画する事業者数（+95社）		URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/700/735/76011/index.html



事業概要：北のまちで若者と女性が輝くサステナブル創造都市プロジェクト

継続

申請者	北海道旭川市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	40,336千円 (10,260千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	■若者・女性の流出などに対応し、地域産業を支える人材の確保・育成を図るため、これまで培ってきた各関係機関との連携を更に深め、全市的かつ総合的な取組を強化することにより、地元定着と域外からの流入増の両面で、地域における人材確保力を高め、若者、女性、外国人などから選ばれ、多様な人材が生き活きと活躍する「サステナブル創造都市」を実現する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 若者、女性、外国人材など多様な人材を確保し、地域産業の発展を目指して、教育機関や関係機関と連携した支援策を展開。若者の産業人材育成や地元定着促進、女性のキャリア支援、外国人材の雇用促進やスキルアップ、障がい者や高齢者の雇用拡大など、多角的な取り組みを行い、インターンシップやセミナー、企業情報サイトの整備、キャリア意識向上のためのイベントなどを通じて、地域産業の変革と持続的な発展に取り組む。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業経費 ■未来の旭川を担う若者への産業人材教育の推進と地元定着・Uターンの促進 ・旭川しごと探究フェア（高校2年生を対象にした合同企業説明会）（477千円） ・マッチング支援事業（旭川市企業情報提供サイトの運営費）（1,828千円） ■女性のスキルやキャリアをアップするための支援 ・就労者の相談窓口と企業への支援によるはたらく女性の活躍推進事業（6,165千円） ■地域産業に変革をもたらす多様な産業人材の確保とスキルアップ支援 ・地域企業日本語学習支援事業（外国人材に対しての日本語学習支援）（500千円） ・技術の継承事業（木製品や窯業製品製造の人材育成）（1,290千円）						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①旭川市労働基本調査での市内企業におけるU I Jターンによる労働者の採用割合（+1.81%） ②進路状況調査での学生就職決定者の旭川での就職率（+3.99%） ③働く女性の相談窓口事業の登録事業者数（+35社） ④旭川市労働基本調査での市内企業における外国人労働者の雇用割合（3.4%） ⑤企業情報提供サイトのセッション数（+36,000回）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/700/735/76011/index.html

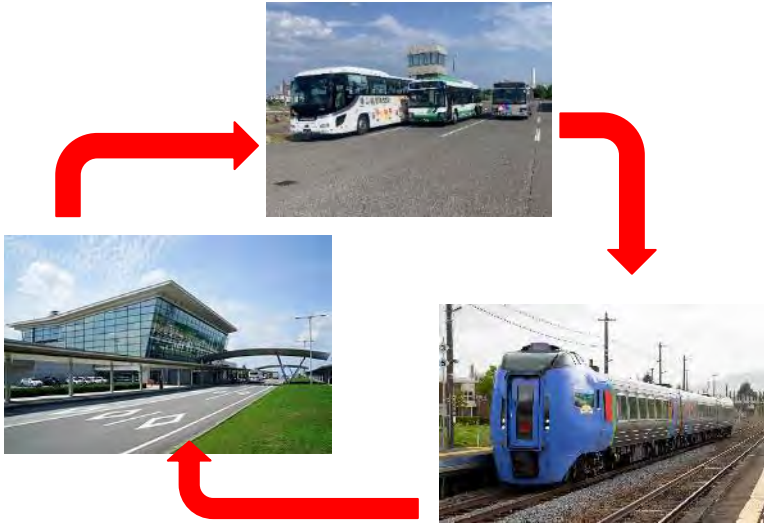
事業概要：クリエイティブ人材を活用した持続可能な地域モデルの構築

継続

申請者	北海道旭川市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	104,714千円 (31,900千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	旭川市が有する木工技術や農産物、観光資源などの地域特有の強みを最大限活用し、クリエイティブ人材とデザインの力で地域課題を解決し、持続可能な地域モデルの構築を目指す。 創造拠点を整備し、リサーチやワークショップ、成果展示を通じた課題解決型プロジェクトを推進する。 「デザインジェネレーター」を活用し、地域事業者が簡単にブランドロゴやパッケージデザインを生成できる仕組みを整備。 ユネスコ創造都市ネットワークを活用し、他都市との連携プロジェクトを通じて新たな価値を創出する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 地域の木工や農産物、観光資源を活用し、ユネスコ創造都市ネットワークを基盤に地域課題の解決と経済活性化を目指し、クリエイティブ拠点の整備やデザインツールの開発、国内外の都市との連携を進め、地域資源のブランド化や新商品開発を促進。また、観光や移住促進イベントも開催し、若者やクリエイターの定着と地域のデジタル化を推進し、地域の競争力向上と持続可能なモデルを構築する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業経費 ・創造拠点の深化とプロジェクト拡大 地域課題解決型プロジェクトの拠点として、企画相談や小規模な検証・発信を中心に実施 7,400千円（事業費、外注費） ・デザインシステムとデザインジェネレーターの統合展開 既存ツールの改善と運用整理を行い、デザインシステムとして庁内外へ共有・定着を図る 15,000千円（委託費） ・ユネスコ創造都市ネットワークを活用した事例作り 他都市と連携したプロジェクトで成果を創出しモデル事例を創出 2,500千円（負担金） ・観光・移住促進イベントの実施 地域資源を広く発信し、観光客や移住希望者の関心を高める 2,000千円（負担金）						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①若年層（15～34 歳）に係る社会減の減少（+149人） ②地域資源を活用した商品やサービスの開発数（+26件） ③創造拠点の来場者数（+7,500人） ④地域課題解決型プロジェクトの実施数（+20件） ⑤クリエイター参加イベント数（+47回） ⑥共同プロジェクトの件数（+5件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/700/735/76011/index.html

事業概要：持続可能な地域公共交通体系の構築プロジェクト

継続

申請者	北海道旭川市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	75,904千円 (18,364千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	○本市は北海道の中央に位置し、道路・鉄道・航空路といった多様な交通資源を有する道内における交通の要衝である。 ○公共交通の確保は、地域における日常生活に不可欠なサービスであり、将来的な人口減少においても維持していく必要がある。そのため、市内の公共交通の効率化のほか、利便向上や利用促進に取り組むとともに、旭川空港に国内外の航空路線を誘致することにより、インバウンドの呼び込みを図り、更なる利用増につなげることで、人口減少下においても、持続可能となる公共交通ネットワークを構築する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 地域公共交通はコロナ以前からの外部変化の影響を受けて、利用者減・経営余力の低下・運賃収入・フリークエンシーの低下という負のスパイラルに陥っている。このため、利用促進イベント、PR活動等の事業を行うことで、利用者増・経営体質の改善・サービス強化、持続可能性向上という正のスパイラルに戻す事業を行っていく。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○公共交通（バス）の利用促進に向けた取組み（負担金等） ・地域公共交通会議、バスの日イベント、駐輪施設整備等 3,254千円 ○公共交通（JR路線）の安定運行に必要なPRなどの利用促進に向けた取組 ・駅巡りイベント、PR広告掲載等 409千円 ○旭川空港の路線維持及び利用促進（負担金等）14,700千円 ・グランドハンドリング体制確保、旭川空港利用拡大期成会						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①観光入込客数（+127万人） ②市民一人当たりの路線バスの年間利用回数（+12回） ③空港乗降客数（+40万人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/700/735/76011/index.html (まち・ひと・しごと創生総合戦略HP)

事業概要：あさひかわ独自の文化，芸術を活かしたまちづくりプロジェクト

継続

申請者	北海道旭川市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	143,070千円 (46,314千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・旭川市が醸成してきた貴重な文化遺産や文化資源についての魅力をさらに磨き上げ、様々なジャンルや様々な世代による文化芸術の交流を通してコラボレーション企画の取組を行うことで新たな文化体験を創出し、国内外から様々な背景を持つ人々が参加し、共生することのできるまちづくりの実現を図り、観光客が増加するだけでなく、全国や海外から多くの創造力あふれる人材が集まる市民が誇れる文化芸術都市・旭川を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 彫刻や文芸、織物など本市に根差した文化芸術のそれぞれの分野において、新たな文化体験の創出に向けた事業の磨き上げと、文化芸術活動に関わる市民の増へに向けた取組を行うとともに、多様な参画を募って運営体制を構築し、市内中心部の屋外において、幅広い年代の市民や観光客が様々な文化芸術体験に限るに参加できる芸術マルシェを開催する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・芸術マルシェの開催による新たな文化体験の創出 ・各種文化芸術団体へのヒアリング調査（委託料） 1,200千円 ・市民の主体的で多様な文化芸術活動の拠点の創出と活動の活性化 ・市民ギャラリー運営による文化芸術活動の場の提供（負担金）6,762千円 ・市民の文化芸術活動の経費の一部助成（補助金） 1,403千円 ・地域の文化資源の磨き上げと市民や観光客への普及振興 ・野外彫刻の広報PR，活用・普及に係る経費 384千円 ・地域に根差した文化芸術産業の振興支援 ・優佳良織普及促進事業補助金（補助金） 2,727千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①観光入込客数（+126.5万人） ②文学施設等来場者数（+6,205人） ③優佳良織の織体験参加者数（+144人） ④芸術マルシェ来場者数（+1.2万人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	（効果検証） https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/kurashi/218/251/257/p005026.html

事業概要：多角的アプローチによる地域農業未来推進プロジェクト

新規

申請者	北海道旭川市					初回採択回	令和8年1月募集	
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	343,295千円 (171,514千円)	
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業			
目的・効果	担い手不足や生産基盤の脆弱性といった構造的課題の解決により、「稼ぐ農業」を確立し、未来へ持続する地域農業づくりを目的とし、 ・新規就農者の受入体制整備、農福連携等により、労働力確保と定着を図り、安定的な営農体制の構築を目指す ・国・道営事業を補完する簡易な区画整理、土壌分析診断に基づく土づくりの推進などにより効率的な農地環境の整備を推進する ・有機農業やグリーン農業の拡大、サツマイモ等の高収益作物の導入、商品開発・PR支援により市場競争力の強化を図る							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本市農業を多角的に強化する取組として、新規就農者の受入体制構築や農福連携による労働力確保、簡易な区画整理や土壌分析診断による生産基盤の改良、スマート農業と気候変動に対応した栽培技術の確立を推進する。あわせて、全国初のオーガニックビレッジ宣言をはじめとした有機農業の推進や、高収益作物への転換、ブランド化を図り、これらの取組により、生産性と付加価値を向上させ、「稼げる農業」から担い手確保へつながる好循環を確立し、本市農業の持続的発展を図る。					  		
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・新規就農時の負担軽減に向けた支援（助成金）5,000千円 ・簡易な区画整理に対する生産基盤整備への支援（助成金）9,000千円 ・スマート農業の導入、省力化資材の導入支援（補助金）79,209千円 ・有機農業等の環境にやさしく持続可能な栽培方法への支援（補助金）38,606千円							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①農業生産額（+821百万円） ②農産物生産量（+1,158t） ③面積当たりの個人農業所得額（+113,209円/ha） ④担い手農家への農地集積率（+2.5%） ⑤1経営体当たりの経営耕地面積（+1.82ha）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/700/735/76011/p005586.htm	

事業概要：カムイ・リジェネラティブ観光地経営実装プロジェクト ～Tourism for Wellbeing～

新規

申請者	北海道旭川市ほか 8 自治体※					初回採択回	令和 8 年 1 月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	650,052千円 (248,928千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・観光における恩恵を地域住民が実感できる仕組みづくりを構築するとともに、地域住民と新たな関係人口としての来訪者との接点を創出し、シビックプライドの醸成を図る。 ・都市と自然の近接性を生かし、本圏域内の機能と資源を有機的に結合させた滞在型高付加価値商品を造成・販売することで、滞在日数の延伸及び消費単価の向上を実現し、本圏域の経済波及および経済循環を図る。 ・人口減少下でのサービス維持と機会損失防止のため、DMO支援によるDX・新技術活用と、高付加価値体験を提供する人材の育成を推進する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本事業は、世界から選ばれる目的地と住民が誇りを持てる暮らしが共鳴する、持続可能な観光地域づくりを実現するため、ATやスノーなどの地域資源を生かしながら、高付加価値商品の造成及び販売するとともに、国際基準（JSTS-D）に則り、来訪者の「ツーリストシップ」と住民の「シビックプライド」を育む受入体制を構築する。経済効果を圏域全体へ波及させ、真に地域住民が恩恵を受けられるよう、地域の稼ぐ力と住民の幸福度を最大化させる観光地経営を実装する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・観光地経営実装プロジェクト（負担金 65,687千円） 商品造成・販売、プロモーション事業 シビックプライドの普及啓発 デジタル化や人材育成などの基盤整備 「住んでよし、訪れてよし」を実現する観光リ・デザイン（委託料など）120,578千円 ナイトタイムエコノミーやガストロノミーを活用した分散化の仕組みづくり 来訪者と地域の接点を創出する誘客及び滞在コンテンツの提供						
主なKPI	①経済波及効果（+637億円） ②住民満足度（+31.2ポイント） ③インバウンド平均滞在日数（+1.5泊） ④観光消費額（1人あたり）（+15千円） ⑤リピーター率（+3%） ⑥マイセン展示会の来場者数（+30,000人）					URL	https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/700/735/76011/p005586.htm

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL

※北海道旭川市、鷹栖町、東神楽町、比布町、愛別町、上川町、東川町、当麻町、美瑛町の広域連携事業

事業概要：あさひかわ地域共創イノベーション創出プロジェクト

新規

申請者	北海道旭川市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	72,000千円 (24,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・地域の医療・福祉分野の課題と高専等の技術シーズを直結させ、デジタル技術の活用による地域の生産性向上を実現する。 ・開発したソリューションを地域外へ横展開し販路を開拓することで、外からの収益を獲得しうる持続可能な産業モデルを確立する。 ・学生が先端技術を活用した社会実装に挑む機会を創出し、シビックプライドの醸成とデジタル人材の地域定着・還流を果たす。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本市が直面する医療・福祉ニーズの増加と労働力不足という相反する状況に対し、地域内のデジタル技術シーズ（高専生等）を活用した「産学官連携プラットフォーム」を構築する。学生主体でゲーミフィケーションやICT等を活用した課題解決プロジェクト（療育支援システム、高齢者コミュニティ支援アプリ等の開発）を実践。現場におけるケア業務に係る負担軽減を図ると同時に、ソリューションの横展開によるビジネス化および若手デジタル人材の地域定着・還流を促進するエコシステムを確立する。					地域課題 × ICT・ゲーミフィケーション = イノベーション	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・産学官プラットフォームの構築・拠点整備に係る事業 プラットフォームの構築・拠点整備に係る事業(負担金)14,000千円 ・課題解決プロジェクトの推進に係る事業 課題解決プロジェクトの推進に係る事業(負担金)10,000千円						
主なKPI	①プロジェクト参画学生の地域内就職・起業等の人数（+35人） ②プロジェクト参加者のUIターン・関係人口数（+35人） ③課題解決プロジェクトの実施件数（+14件） ④開発したソリューションの社会実装件数（+195件） ⑤プロジェクト参画団体数（+50者） ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/700/735/76011/p005586.htm

申請者	北海道北見市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	16,500千円 (5,500千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	市内のあらゆる企業が「デザイン経営」を実践し、優れた商品・サービスを継続的に開発・改良することによって、イノベーションが生まれやすい企業風土が醸成され、市場環境の変化に対し柔軟に対応できる経営基盤が構築されることにより、地域全体が活力を持ち続け、魅力ある地域社会の実現を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 人口が減少している近年は、消費者が各人の嗜好に基づいてモノやサービスを選択する時代に移行し、個々の製品の機能や品質よりもサービスやブランドによる顧客体験の質が、ビジネスの成功に大きな影響を及ぼすようになってきており、「デザイン経営宣言」(特許庁)の中で、デザインは顧客体験の質を大幅に高めるものとして紹介している。そこで、本プロジェクトを通じて、企業が自社の可能性・魅力を理解するとともに、経営課題を特定し自分たちの力で解決できるようになり、稼ぐ力を高めることができる。また、市外から創造性豊かな若手デザイナーを呼び込み、当市が持つ技術や人材等と融合することにより、新たなイノベーションが生まれる環境を整えることができる。					オホーツクデザイン経営プロジェクト Phase1 普及・啓蒙のための キックオフイベント や ワークショップ  普及・啓蒙イベントやデザイン経営の基礎を学ぶワークショップを開催。デザイン経営の基礎を身に着ける。 Phase2 デザイン経営を実践する 企業とデザイナーがペアを組み、 デザイン経営を活用して 企業のMission/Vision/Valueと、 実行プランを策定、実行する。  Phase3 デザイン経営を実践する人材の コミュニティ形成  地域にデザイン経営の機運が醸成され、市外からも創造性豊かな若手デザイナーが多く集まり、さらなるイノベーションが生まれる。	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・デザイン経営実践人材育成支援事業(委託料) 5,500千円 コーディネート業務、イベント開催、広報等						
主なKPI	①当プロジェクトのワークショップ及びスクールに参加した企業の労働生産性増加率(+3%) ②当プロジェクトで立案した事業計画の実行により 新商品・新サービスを開発した事業所数(+6事業所) ③当プロジェクトのイベントに参加した事業所数(+69事業所) ④当プロジェクトのイベントに参加したデザイナーの延べ人数(+36人)					URL ※交付金の具体的な使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	(具体的な使途等) https://dotdoto.com/journal/journal-202509-okhotskbluevision/ (効果検証等) 令和8年8月公表予定

事業概要：オホーツク食材のブランド力を活用した交流人口拡大プロジェクト

継続

申請者	北海道北見市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	67,000千円 (22,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	オホーツク食材のブランド力を活かし、以下の事業を開催することで、戦略的に本市の魅力発信と誘客を促進し、交流人口拡大につなげる。 北見市のみならず、オホーツク地域の豊かな自然環境で生まれた地元の食材を使用した「食」や地ビールの提供により、国内外問わず全国各地と幅広い関係性を創出することで、地域ならではの魅力を発信する。 市民の食文化である「焼肉」のブース設置などのイベントを行うことで、「焼肉のまち北見市」のブランド力を更に強化し、焼肉をきっかけとした集客促進と観光振興を図る。 AR等の最新技術を活用したイベントを地域の学生を巻き込んで行い、YouTubeでの動画配信やSNSなど多様なメディアを活用して配信することで、情報発信を強化し、事業及び地域の認知度向上を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 「焼肉のまち北見市」をきっかけとしてオホーツク食材を活かしたマルシェ開催により、地域資源の磨き上げと交流人口拡大につなげ、本市の文化や自然などの地域の個性を活かした魅力ある持続可能で稼げる観光地域づくりを進める。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 補助金 22,000千円 (内訳) ・委託料 16,000千円 会場設営、配信機器手配、動画作成等 ・その他運営経費 6,000千円 報償費、消耗品費、チラシ・ポスター、広告料等						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①観光消費額 (+2,500万円) ②来場者数 (+38,400人) ③YouTube閲覧数 (+720回)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年度中に公表予定

事業概要：網走市観光デジタルプロモーション・マーケティング事業

旧制度（推進）

申請者	北海道網走市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	79,339千円 (29,819千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野
目的・効果	・「網走市デジタルファースト宣言」による「関係人口創出のデジタルファースト」の実現を図る。 ・インバウンド対策のためのフェーズ1として情報発信によるデータを集積を目指し、EBPM推進を行う。 ・ユーザーニーズを満たすデジタルコンテンツの新規作成、既存デジタルコンテンツのリライト・改修を実施 ・BrandLift調査・来訪計測調査により、ユーザーの興味関心の増加が見込めるかどうかの可視化を図る。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・観光公式WEBサイト「おいしいまち網走」において、テクニカルSEOの実施やコンテンツの新規作成・改修を行い、検索流入と情報訴求力を強化 ・高品質なデジタル撮影機材を用いて撮影したインバウンド向けの観光動画を新たに制作するとともに、トレンドに合った縦型動画を継続作成 ・WEBサイトでの縦型動画特設ページ表示、BrandLift調査の実施 ・縦型動画を活用したSNS広告配信及びTikTokのオーガニック運用等、国内外に向けた継続的な観光プロモーションの実施		デジタルで進化！網走の観光プロモーション戦略  WEBサイト 強化で集客UP SEO対策とコンテンツ改善で、検索からの訪問者を増やす。  縦型動画で 心をつかむ トレンドのショート動画を作成し、情報発信力を強化する。  SNSで 世界へアピール TikTokやSNS広告を活用し、国内外へ継続的プロモーションを行う。
	【R8年度事業 経費内訳】 委託料 ・デジタルプロモーション費用：広告配信費（国内）3,408千円、広告配信費（海外）6,135千円、インバウンド向け観光動画制作費8,943千円、縦型動画制作費1,274千円、WEBサイト記事制作費1,600千円、TikTokオーガニック運用2,420千円、消費税2,378千円 合計26,158千円（税込） ・デジタルマーケティング費用：ダッシュボード保守運用・G A 4 アクセス分析費800千円、fireworkツール費1,728千円、諸経費800千円、消費税333千円 合計3,661千円（税込）		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①観光消費額（+301億円） ②観光入込客数（+5,438千人） ③インバウンド宿泊客数（+116,512人） ④ランディングページエンゲージメント率（+195%）	URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL	【実施体制・効果検証】 令和8年度6月公表予定 【交付金の具体的使途】 https://visit-abashiri.jp/

事業概要：道の駅るもいアウトドア観光拠点整備事業

継続

申請者	北海道留萌市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,463,850千円 (80,454千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	道の駅るもい内にアウトドア観光を進める「アウトドア・アクティビティ拠点施設」を整備し、留萌管内のアウトドアや食に関する一元的な情報発信、サービス提供等行うことで、「稼ぐ観光」へシフトし、都市機能の維持やまちの活力につなげることに加え、新たな観光需要に伴う、民間投資の誘発等により、若者に魅力ある雇用づくりにつなげ、若者が誇りに思えるふるさと留萌のまちづくりを目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 留萌地域の持つ特質性、ポテンシャルを最大限発揮させるためには、これまでの海水浴場中心の体験型観光から、本格的なアウトドア観光を軸とした観光事業の転換を図り、恵まれた環境を生かした「稼ぐ観光」にシフトすることが重要となっている。 そこで、留萌市及び留萌管内で「アウトドア」を楽しむ情報拠点として、観光案内や、現在商品化を進めているアウトドア体験、ツアー商品などの紹介、アウトドア用品のレンタルの受付などを行うビジターセンターの機能を有する「アウトドア・アクティビティ拠点施設」を整備する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・駐車場等整備事業 80,454千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①観光消費額（+10.2億円） ②道の駅るもい入込数（+141,517人） ③訪日外国人宿泊客延数（+560人） ④道の駅るもいから発信したアウトドア・アクティビティの体験者数（+604人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.e-rumoi.jp/keizai/page17_00308.html

申請者	北海道苫小牧市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	839,634千円 (260,634千円)
事業類型	ソフト事業	✓	事業分野		インフラ整備事業		
目的・効果	次世代半導体生産工場の整備、苫小牧駅前再開発、データセンター整備、GX推進を契機として、苫小牧市の地域資源や都市構造・機能を活かした民間参入や活動をより促進させ、その活動が市民のQOL向上やWell-being等の暮らしの豊かさにつながるまちづくりを実現することで、関係人口・交流人口の増加及び市内産業の活性化による付加価値額の増加と地域内外への認知向上を図る						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 キーコンテンツ1：産業振興（民間活力の創出・誘引）に係る事業 キーコンテンツ2：都市アメニティ（生活を豊かにする環境整備）に係る事業 キーコンテンツ3：移動（市内波及を生むための仕組み）に係る事業						
	【R8年度事業 経費内訳】 1-①GX人材育成カリキュラム開発（委託料）10,000千円 1-②GXフィールドの市場調査・導入可能性検証（補助金・委託料）16,000千円 1-③新規事業創出及び人材確保支援（補助金・委託料）54,000千円 1-④プロモーションに係るコンセプト作成等（委託料）33,000千円 2-①次世代人材の育成に係るカリキュラム開発（委託料）26,250千円 2-②賑わい創出に係るコンテンツ開発・実施（委託料）52,000千円 2-③ウォーターフロントエリアのリブランディング検討（委託料）20,000千円 3-①勇払地域での区域運行型デマンドモビリティ及び通勤シャトルの社会実装（委託料）15,000千円 3-②東西基幹交通における路線バスの高度化の実証（委託料）19,384千円 3-③鮮度保持・保管に関する実証委託費5,000千円 ・戦略的地方創生事業の検討会議の設計・運営10,000千円（委託料）						
主なKPI	①関係人口数（+2,000人） ②観光客入込数（+30万人） ③付加価値額（+600億円） ④課題解決型プログラムを通じてスキル習得した人材数（+160人） ⑤実証したMaaSサービスの利用者数（+1.8万人） ⑥市民の都市ブランド好感度（+70%）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方針への反映が記載されているURL	（交付金の具体的使途・実施体制） https://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/kanko/resort/senryaku/miramati.html （効果検証）同上

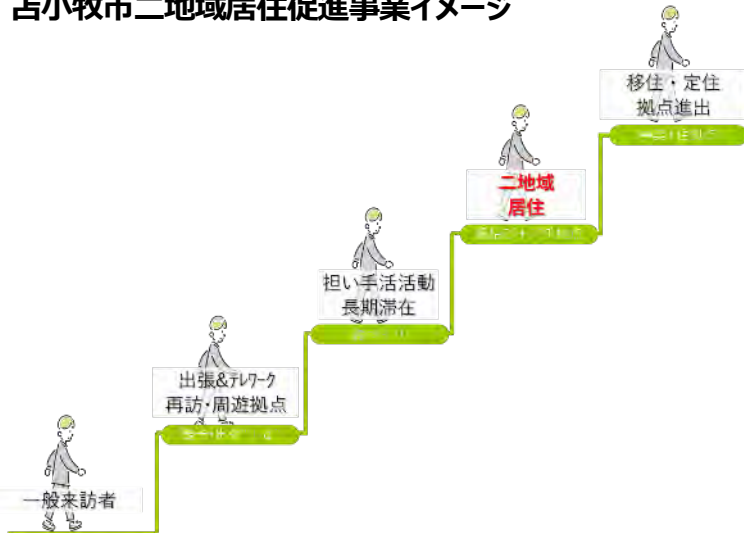
事業概要：半導体 × G X / 物流拠点 産業立地プロモーション事業

新規

申請者	北海道苫小牧市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	26,020千円 (18,020千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	北海道と人流・物流の面で好条件な環境が整う台湾をターゲットとし、半導体やG Xなどの先端産業の集積を先駆的に進め、関連企業の立地を迅速に推進する。台湾でのトップセールス等を通じて本市の立地優位性を発信し、台湾企業の市内視察や地場企業との交流会等によるネットワーク構築を支援する。これによって企業誘致を加速させ、地域経済への波及効果を創出することを目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 半導体・GX等の台湾企業を誘致し、地場企業とのサプライチェーンを構築し産業構造の高度化を図る。 空港・港湾の優位性を活かし、台湾の物流・商社機能呼び込み、アジアと世界を繋ぐ北の国際物流拠点としての地位を確立する。 世界トップ企業との連携で高付加価値な雇用と投資を創出し、若者の定着と税収増を図り、持続可能な地域経済を実現する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 台湾天下経済フォーラムへの参画によるトップセールスPR ・台湾経済フォーラムを活用した企業誘致・投資促進一括プロモート委託料 16,820千円 ・上記事業に係る市長トップセールスおよび随行者旅費 1,200千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①次世代産業関連企業の進出件数（+2件） ②戦略的アプローチによる「重点検討」への移行件数（+4件） ③次世代産業関連企業の集積に伴う新規雇用者数人数（+20人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/kigyoritchi/

事業概要：苫小牧市二地域居住促進事業

新規

申請者	北海道苫小牧市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	15,000千円 (5,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・交流人口・関係人口の増加、さらには将来的な移住・定住につなげるほか、地域の担い手の確保や消費等の需要の創出、新たなビジネスや後継者の確保、雇用創出等につなげる。 ・本市に一定時間滞在し、将来的な移住につながることで、人口減少を一定程度抑制することができるほか、関係人口化により、地域社会の活力が維持されるなど大きな効果が期待できる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 人口減少による労働力不足や地域経済の縮小、税収減、社会保障等への圧迫など、本市の持続可能性に多くの影響を及ぼすため、当該取組による地域の担い手の確保や消費等の需要の創出、新たなビジネスや後継者の確保、雇用創出等につなげることで、市民の暮らしと安全を守る。					苫小牧市二地域居住促進事業イメージ 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・二地域居住促進業務委託料 5,000千円 (1) 相談窓口の設置 (2) 苫小牧エントリーパスの実施 (※) (3) 二地域居住の実現に向けた取組 (ふるさと住民登録制度活用等) (4) セールスプロモーションの実施 (5) ポータルサイトWebコンテンツ作成 ※市内コワーキング施設、観光施設、レンタカー、レンタサイクル、市内飲食店などで使える、来訪者向けの総合優待割引クーポン						
主なKPI	①関係人口数 (+2,600人) ②観光客入込数 (+30万人)					URL	交付金の具体的使途・実施体制) (効果検証) https://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/shisei/shisei/shiseihoshin/senryaku/

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL

事業概要：自動運転社会実装推進事業

新規

申請者	北海道稚内市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	60,000千円 (60,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	深刻な運転手不足という課題に対し、自動運転技術を導入することで、将来にわたり持続可能な地域公共交通体系を確立する。本市の基幹産業である観光業やエネルギー産業の存立基盤を強化し、エネルギーを地域内で循環させる「強い地域経済」の構築、拡大を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 J R 稚内駅、バスターミナルと直結する交通結節点である施設（キタカラ）とフェリーターミナルの往復、及び稚内市役所や地域医療の中核である市立稚内病院などの主要拠点を結ぶ約 5 kmのルートで、自動運転EVバスを段階的に社会実装する。令和8年度はレンタル車両で技術検証や社会受容性評価を行い、令和9年度は車両を購入し、ルートを固定した実証運行を継続、令和10年度にはレベル4無人運行を目指す。これにより運転手不足を克服し、持続可能な生活路線の維持と二次交通の利便性向上を両立させる。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 自動運転社会実装推進事業 ・自動運転実証運行に要する経費（委託料）60,000千円 ・人件費：実証運行のマネジメント、テスト走行、現地サポート要員の派遣費用等 ・マップ作成費：自動走行に不可欠な路線の高精度 3 Dマップ作成費用 ・車両関連費：自動運転 E Vバスの車両稼働費、車両輸送費、稼働充電車及び充電設備費 ・調査費：社会受容性調査、実証結果レポート作成支援費用						
主なKPI	①対象地区（中央地区）の人口（▲81人） ②自動運転バス利用者数（+150人/日） ③自動運転バス利用者の満足度（+160%） ④自動運転バス導入への地域住民の期待度（+160%）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.wakkanai.hokkaido.jp/kurashi/kotsu/jidounten.html （交付金の具体的使途・実施体制等は令和8年6月公表予定）

事業概要：美唄シティプロモーション推進事業

継続

申請者	北海道美唄市					初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	81,321千円 (16,598千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・今後の美唄市の言語となる美唄ブランドを市民と共同で構築し、シビックプライド醸成を図る ・美唄ブランドを市民に広く周知し、美唄市の魅力の再発見を促し、市民の美唄市に対する愛着を高める ・市民参加型のワークショップ等の事業を通して、市民協同のまちづくりの気運醸成を図る ・美唄ブランドを市外に発信し、関係人口の拡大を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 地域ブランドの構築と浸透を目指し、コンセプトやロゴ、キャッチコピーを作成し、特設WEBサイトやSNS、YouTubeを活用して情報発信を強化。市民参加型のワークショップやまちづくり部の設立により、市民の愛着や意見を反映し、地域の魅力を高め、市外への情報発信や商品展開、ブランドツアーを通じて関係人口の拡大も進める。さらに、デジタル技術を積極的に活用し、情報発信力の向上と人材を育成する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○美唄ブランドを構築する事業を行い、市民の美唄市に対する愛着を高める。 ・美唄ブランド推進・PR・管理委託費 12,253千円 ・WEBメディアの管理・運用委託費 2,908千円 ○美唄ブランドを市外へ発信し、関係人口の拡大を図る。 ・広報運用管理費委託費480千円 ・関係人口創出プロモーション経費 957千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①美唄ブランド展開による美唄市の認知度向上（ふるさと美唄応援団登録者数）（+1,600人） ②美唄ブランドのメディア掲載件数（+145件） ③美唄ブランドロゴを活用した商品数（+65件） ④市民アンケートで「美唄に愛情を感じている」と答える市民の割合（+44.5%）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.bibai.hokkaido.jp/soshiki/3/19851.html

事業概要：スノーアクティビティを契機としたインバウンド拡大プロジェクト

継続

申請者	北海道美唄市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	96,207千円 (34,060千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	スノーアクティビティを中心に急増しているインバウンド客をオールシーズンで受入していくために、外国人観光客の受け入れ体制を整備し、観光資源を最大限に活用することで、市街地の賑わいを創出し、雇用を創出することを目的とする。 本市の観光DMO「一般社団法人ステイびばい」と市が中心となって、冬のインバウンド観光を起爆剤として、観光地としての魅力を国内外に広く発信し、観光業を中心とした地域経済の活性化を図る。また、市街地の賑わいを生み出し、新たな雇用の創出に繋がる取り組みを進めることで、持続可能な経済成長を実現するための基盤を構築する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 インバウンド観光を起爆剤として、観光地としての魅力を国内外に広く発信し、観光業を中心とした地域経済の活性化を図る。また、市街地の賑わいを生み出し、新たな雇用の創出に繋がる取り組みを進めることで、持続可能な経済成長を実現するための基盤を構築する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・インバウンド観光客受入市民啓発（委託料）730千円 ・インターンシップ受入(委託料) 880千円 ・映画制作に伴う支援（補助金） 5,000千円 ・海外インフルエンサーを活用したSNSプロモーション(委託料) 3,000千円 ・ロケ地巡りMAP作成（委託料） 2,250千円 ・商品開発補助(補助金) 2,000千円						
主なKPI	①外国人観光客の域内消費額（+1.7億円） ②日帰り外国人観光客数（+27,200人） ③外国人観光客延宿泊客数（+4,160人） ④インバウンドに対応した何かのサービスを行っている事業者数（+8事業者）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	（交付金の具体的使途・実施体制・効果検証） https://www.city.bibai.hokkaido.jp/soshiki/3/19851.html

事業概要：アルテピアツツア美唄 文化芸術交流拠点機能強化事業

新規

申請者	北海道美唄市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	427,936千円 (425,436千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	アルテピアツツア美唄の中核施設であるアートのスペースを改修し、文化・芸術を核とした交流拠点としての機能を再生することを目的とする。改修後は、展示やコンサート、ワークショップ等の文化・芸術活動を通じて、市民の文化活動の活性化と来訪者との質の高い交流を促進するとともに、滞在型観光の拡充を図り地域内消費の拡大や関係人口の創出につなげ、公共性と持続性を両立した地域未来戦略の実現を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本事業は、安田侃彫刻美術館アルテピアツツア美唄の中核施設である「アートのスペース（旧栄小学校体育館）」を再整備し、文化財としての価値を将来にわたり保全するとともに、地域文化の発信拠点としての機能を再構築するものである。 文化体験や活動により、滞在時間の延長や再訪につながる。来場者数の増加はもとより観光客の域内消費の拡大が期待される。 本施設により、人の流れを「点」から「循環」へと転換する役割を担う。 来訪者が施設内での体験にとどまらず、周辺地域への関心や行動を広げる契機を生み出し、地域内での回遊や消費、継続的な関与が生まれる「人の流れの循環構造」を形成する。						
	【R8年度事業 経費内訳】						
	○拠点整備事業 施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 ・建築物整備 425,436千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①観光客の域内消費額（+11.4億円） ②観光入込客数（+165万人） ③アルテピアツツア美唄年間来場者数（+4,500人） ④アートのスペース活用日数（45日）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年6月公表予定

事業概要：音楽フェスを起点としたアウトドアコンテンツ創出事業

新規

申請者	北海道美唄市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	98,854千円 (27,078千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	大型野外音楽フェスを本市に誘致し、音楽フェスを起点としたアウトドアコンテンツの創出により、市外からの誘客を促進するとともに、地域の自然、景観、食、人との交流といった地域資源を体験型コンテンツとして発信し、交流人口および関係人口の拡大を図ることを目的とする。 本市に根差した既存の産業や事業者、地域資源を活用し、その付加価値向上や波及効果の創出を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本市のまちのコンセプトでもある「美しき唄のまち・美唄」を体現するため、誘客数等 に実績のある大型野外音楽フェスを本市に誘致する。今後も将来にわたり継続して 開催し、自走できる仕組みづくりを行う。 この音楽フェスを起点としたピクニックやキャンプといったアウトドア体験を組み合わせる ことで、来訪者が本市の自然や景観、食を体感できる機会を創出する。こうした体験 を通じて、市外からの来訪者には「また訪れたい」「関わり続けたい」と思ってもらうととも に、市民にとっては自らのまちの魅力を再認識し、地域への誇りや愛着、シビックプライ ドを醸成することを目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・野外音楽フェス開催に係る負担金(負担金) 15,000千円 ・イベント会場整地費(手数料) 2,000千円 ・大型ビジョンの借上げ及び映像上映に係る費用(負担金) 1,000千円 ・音楽フェス参加アーティストによる情報発信(手数料) 2,000千円 ・観光ビッグデータを活用した人流分析調査(委託料) 880千円 ・大型観光商談会への出展(委託料) 1,518千円					 	
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画にお ける「KPI増加分の累計」の目標値	①観光客の域内消費額（+6.6億円） ②イベント来場者数（+5万人） ③観光入込客数（+9.5万人） ④社会増減数（年間）（+51人）					URL ※交付金の具体的使途・実 施体制・効果検証の結果及 び改善方策への反映が記載 されているURL	令和8年6月公表予定

事業概要：えべつシティプロモーション高度化プロジェクト

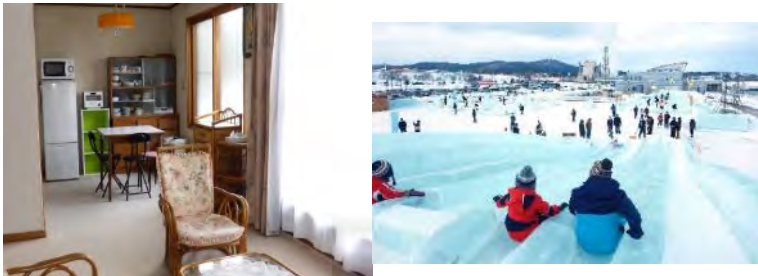
継続

申請者	北海道江別市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	47,517千円 (16,516千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	令和7年度からの3年間を江別市シティプロモーション強化期間とし、市職員や市民といった垣根を越えてクリエイティブな活動を進めるシティプロモーションチームを立ち上げ、市の魅力を伝えるコンテンツを数多く発信する。 ターゲットは北海道内の子育て世代に定め、「子育てなら江別市」を直接的に訴えかけることで、住む場所を考える際に自然と当市が選択肢に上がるよう、意識付けを行う。また、ふるさと納税返礼品のPR強化や、体験型返礼品の新規開発なども行うことで、人口減少の状況下においても市外からの移住が増え続けるとともに、ふるさと納税先として選ばれるまちを目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 タレントのヒロ福地氏をシティプロモーションのアドバイザーに起用し、市の魅力を効果的に発信する。子育てや教育、住環境の良さをPRし、動画やテレビ、ラジオなど多様な媒体を活用して認知度を高め、移住やふるさと納税の促進に取り組む。						
	【R8年度事業 経費内訳】 【まちづくりアドバイザー活動事業】・活動費、イベント開催費 7,190千円 ○当市の魅力をPRする活動やふるさと納税返礼品の開発のほか、江別市になじみのある人物をゲストとして招き、江別市の住み心地や風土の魅力を発信するトークショーを開催 【ラジオ情報発信番組制作放送事業】・放送制作費、中継車派遣費 4,180千円 ○ラジオ番組内に情報発信コーナーを設け当市の魅力をPRするとともに、同番組とコラボし、地域の魅力を実感できるイベントや取り組みを取りあげて貰う 【SNSターゲット広告・デジタルサイネージ広告出稿事業】・広告費 500千円 ○北海道内在住の子育て世代を中心ターゲット層と定め、SNS広告を出稿するとともに、事業1年目に制作した各種動画を、商業施設や駅等の大型モニターやデジタルサイネージなどで放映 【シティプロモーションチーム育成事業】・ワークショップ講師委託費等 2,456千円 ○市内で活動するビジュアル関連のクリエイターによりチームを組織し、各人が持つ専門的な知識とセンスを生かして、シティプロモーションに資するSNSコンテンツを制作し、発信 【えべつシティプロモート戦略プラットフォーム構築事業（仮称）】・構築経費 2,190千円 ○江別市の情報にアプローチする人を対象に、さまざまな公式情報を集約し、また、地域の魅力をはじめとした情報に容易にアクセスする仕組みを新たに構築						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①本取組による移住者数（+111人） ②移住定住に関する相談件数（+56件） ③ふるさと納税者数（+1,729人） ④移住ポータルサイトの閲覧数（+28,708回）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/site/machiado/

申請者	北海道江別市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	270,972千円 (246,464千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	嘗て、舟運と鉄道の結節点として栄えた江別駅周辺の歴史を物語る旧岡田住宅を改築し、旧岡田倉庫と一体的に活用することで、歴史・文化の発信拠点にするとともに、地域観光・まちづくりの拠点と位置づけ、周辺の観光資源などを巻き込んだ新たな人の流れを創出する。 本施設の整備により、歴史性を活かしたコンテンツとして中心的役割を担い、観光入込客数の増加が期待できる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 JR江別駅周辺の歴史を物語る旧岡田住宅を観光・文化拠点として整備し、建物の意匠に考慮するとともに、一部の部材は再利用することで、歴史や地域資源を活用した賑わいを創出する。『地域に愛され、観光客等の外部の人間にとっても魅力的な「かわまち」』を目標に、地域の観光資源と連携した周遊コースの設定やイベント等を通じた交流人口の増加を促進する。					 外観（東棟）  外観（東棟）	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・旧岡田住宅（旧岡田倉庫付帯施設）改築工事 218,876千円 ・旧岡田住宅（旧岡田倉庫付帯施設）外構工事 27,588千円					 外観（西棟）  玄関ホール、縁側（東棟）	
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①本施設の来場者数（+22,200人） ②JR江別駅の乗降客数（+3,000人） ③本施設における新規雇用者数（+13人） ④施設一帯におけるイベント開催数（+20回）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/soshiki/shoko/108727.html

事業概要： 保育園留学を軸とした紋別市子育て家族誘致と地域ブランディング事業

継続

申請者	北海道紋別市					初回採択回	令和7年度第2回募集	
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	28,050千円 (8,250千円)	
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業			
目的・効果	・地域課題である人口減少・子育て世代の流出に対応するため、保育園留学を起点とした滞在型地域体験プログラムを導入し、子育て世代の移住・二拠点居住を促進する。 ・滞在者の増加を通じて地域の教育・子育て環境の魅力を発信し、交流人口・関係人口の拡大と、地域経済への波及効果（観光収入・宿泊施設活用・ふるさと納税増等）を創出する。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 地域課題である人口減少および若年層の流出に対応するため、子育て世代の移住促進や関係人口の拡大を目的として、「保育園留学」を中心とした滞在型体験プログラムを紋別市に実装する。また、保育士や支援員の採用・育成、PR動画による情報発信など、多角的な取り組みを通じて、地域の保育環境の活性化と持続可能な運営モデルを構築する。							
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 地域外からの人流を創出する保育園留学事業 ①保育園留学運営経費（4,950千円） 募集ポータルサイト管理・運用、利用者調整、問い合わせ対応等 ②保育人材配置事業（7,480千円） 民間企業が保育園留学実施園の保育士（民間）等の保育人材の採用・登用を行い、保育園留学事業の円滑な運営と保育園の人材不足対策を図る。 ③移住PR動画を活用した広告配信業務（3,300千円） 移住PR動画を活用した広告配信							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①子育て世帯UIターン数（+7世帯） ②滞在世帯数（+35世帯） ③滞在日数（+735日） ④地域への経済効果（+700万円） ⑤移住を希望する世帯（+19世帯）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://mombetsu.jp/administration/?category=119	

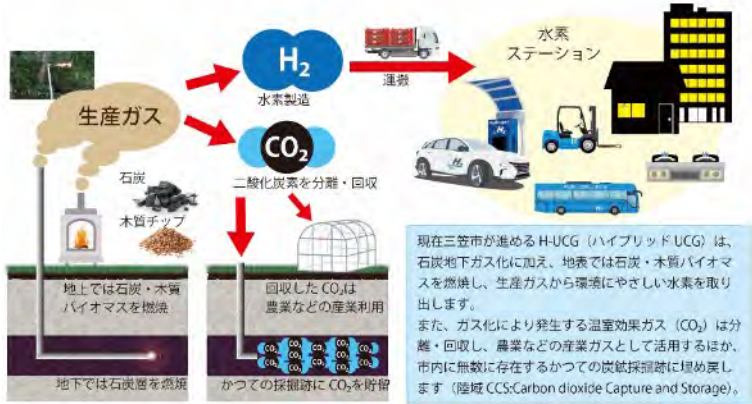
申請者	北海道紋別市					初回採択回	令和8年1月募集											
事業計画期間	R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	73,200千円 (73,200千円)											
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業													
目的・効果	・本事業では、空港連絡バス(市内バスターミナル～観光エリア「ガリヤ地区」～オホーツク流氷公園～紋別空港の区間(片道約10km))の自動運転化(レベル2運行を予定)を図るとともに、運行本数を現行の1往復から3往復へ拡大し、空港と市街地間の移動利便性を向上させる。これにより、観光客の移動制約を解消し、観光消費額の増加、滞在時間の延伸、地域内経済循環の活性化を図る。																	
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 既存の空港連絡バス路線の増便と、経由地として主要観光地を追加した路線を整備し、自動運転(レベル2)バスによる実証運行を行う。紋別市における自動運転バス導入の実現可能性を検証するとともに、市民と観光客双方の需要を把握し、公共交通としての継続運営の可能性を検証する。 1)7～8月の夏季観光シーズンに実証運行を実施し、市民・観光客の市内回遊効果を検証する。 2)観光需要と地域住民の移動需要を取り込み、利用者収入を基盤とした自立運営型交通モデルの構築可否を検証する。 3)観光施設連携、広告収入、企業協賛など複数の収益源を組み合わせ、将来的に自主財源での継続運営を可能とする交通体系を目指す。					 主要観光地 片道10km、往復20kmの区間 オホーツク紋別空港 紋別バスターミナル <table><tr><td>車両名</td><td>ポンチョ</td></tr><tr><td>車両メーカー</td><td>日野自動車株式会社</td></tr><tr><td>乗車定員</td><td>11名</td></tr><tr><td>最高速度^{*2}</td><td>60km/h</td></tr><tr><td>台数</td><td>1台</td></tr></table> 出典： 紋別観光案内所「ラベンダーガーデン」(https://tic.mombetsu.net/tourist-facilities/lavender-garden/)、 紋別観光案内所「オホーツクとっさりセンター(カニの爪オブジェ)」(https://tic.mombetsu.net/tourist-facilities/5282-2/)、 紋別広域病院(https://www.mombetsu-hospital.jp/7cjpvp000000002o-img/ogp.jpg)、 イオン紋別店(https://www.aeon-hokkaido.jp/aeon/shop/monbetsu/)			車両名	ポンチョ	車両メーカー	日野自動車株式会社	乗車定員	11名	最高速度 ^{*2}	60km/h	台数	1台
	車両名	ポンチョ																
車両メーカー	日野自動車株式会社																	
乗車定員	11名																	
最高速度 ^{*2}	60km/h																	
台数	1台																	
【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・自動運転バスリース料：10,000千円 ・車両維持管理費、自動運転システム利用に関する経費：18,807千円 ・自動運転システムの維持管理に関する委託費：18,782千円 ・車両運行に関する交通事業者等への委託費：25,611千円																		
主なKPI	①自動運転走行率(+90%) ②乗車運賃支払意思のある利用者割合(+70%) ③再乗車希望率(+80%) ④広告収入見込み(+48万円) ⑤夏季観光施設入込客増加割合(+15%)					URL	https://mombetsu.jp/administration/?category=119											
※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値						※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL												

事業概要：羊のまち士別 まちなか賑わい創出事業

新規

申請者	北海道士別市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	41,520千円 (18,380千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・道の駅（羊のまち 侍・しべつ）を核として地場産業の魅力発信と販路拡大を図り、地域内消費の拡大につなげる。 ・年間を通じた継続的な賑わい創出により、交流人口の拡大と中心市街地の活性化を促進する。 ・事業者や市民の主体的な参画を促し、補助事業終了後も自立的に継続可能な地域経済の好循環を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 人口減少や高齢化の進行により地域経済の縮小が進む中、道の駅（羊のまち 侍・しべつ）を核として、地場産業の魅力発信と販路拡大を図る取組が求められている。 本事業では、季節やテーマに応じた小規模イベントを年間を通じてリレー形式で開催する「賑わいJUNKANリレー」を展開し、地元事業者の継続的な出店・販売機会を創出する。 あわせて、屋外出店環境の整備やファミリー層向けコンテンツの導入、「お試し出店」等を通じて新規出店者や小規模事業者の参入を促進し、商品改良や売上向上につなげる。これらの取組を戦略的な情報発信と連動させ、交流人口の拡大を地域内消費へと結び付け、補助事業終了後も自立的に継続可能な賑わいと地域経済の好循環を目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・新観光パンフレットの刷新（委託料） 3,700千円 ・広告宣伝・PR（広告宣伝費、需用費） 4,860千円 ・テレビを活用した賑わいプロモーション（委託料） 2,100千円 ・士別市へのお試し誘客ツアー（委託料） 600千円 ・賑わいJUNKANリレー運営管理（委託料） 2,820千円 ほか						
主なKPI	①観光入込客数（+10,000人） ②道の駅（羊のまち 侍・しべつ）活用件数（+220件） ③道の駅（羊のまち 侍・しべつ）出店者売上（+440万円）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.shibetsu.lg.jp/gyo/seisaito/shiseijoho/jutenjigyo_puroji/ekuto/3/2197.html

申請者	北海道三笠市	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	382,700千円 (100,000千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的・効果	地域資源である石炭および木質バイオマスを活用したグリーン水素製造に係る産業創出を図る 水素製造の過程で発生するCO2の有効利用とこれに係る産業創出を図る 脱炭素まちづくりに向けて、資源やエネルギーの循環による三笠モデルの構築を図る		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 石炭採掘跡に圧入し、鉱物化や岩盤の強化を図ることで、環境負荷を低減しながら資源の有効利用と産業・雇用の創出。また、市民や事業者への普及啓発や教育活動も行い、脱炭素社会の実現に向けた理解と協力を深め、さらに、デジタル技術やPR活動を通じて、地域と都市圏での取り組みを広く周知し、産業化を推進する。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ○水素製造・利用・CO2有効利用による脱炭素まちづくりおよび産業創出に資するグリーン水素製造の実現に向けた調査・技術開発 ・技術検証および分析（委託料）95,000千円 ○脱炭素まちづくりの実現に向けた市民理解や企業連携の促進を図る事業PR活動 ・PR映像・資料制作（委託料）5,000千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①事業参画する企業の数（+57件） ②脱炭素に向けた普及啓発事例の数（+15件） ③普及啓発事業の参加者数（+1,250人） ④事業推進に伴う定住人口の数（+30人）	URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年6月公表予定



事業概要：三笠市郷土文化魅力創出・発信事業

旧制度（推進）

申請者	北海道三笠市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	65,049千円 (10,420千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	北海道の夏の風物詩の一つとして、北海道内各地で行われている北海盆おどりは、平成13年（2001年）に「空知の炭鉄関連施設と生活文化」の無形文化として北海道遺産に登録されており、その北海盆おどりで唄われている北海盆唄は、三笠市が発祥の地とされている。郷土の文化は、長い歴史と風土の中で継承され、育まれてきた貴重な財産であり、これらを今後も継承していくためには、歴史文化の保存・展示とともに、魅力や継承の意義等を広く伝えていくことが必要であり、北海道遺産としての北海盆おどりも同様に継承していかなければならない文化である。その北海盆おどりを中心とした「三笠北海盆おどり」も、地域に根差した文化と地域づくりの重要な施策として、盆おどり魅力増加事業し、マチの活性化を目指す。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ドラマを見て訪れた市内観光客に向け、市内情報を入れ込んだロケ地巡りマップの制作を行い、情報発信・PRを実施することでまち全体の賑わいの創出を図る。 また、引き続き盆おどりイベントを実施することで来場者の増加と市への関心の継続化を図る。		
	【R8年度事業 経費内訳】 宣伝に要する経費（ロケ地マップ制作） 400千円 盆おどり魅力増加事業（「三笠北海盆おどり」の実施） 10,020千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①地域へのUIターン数（+0.3%） ②三笠北海盆おどり入込客数（+600人） ③ロケ地巡りMAPの頒布数（+7,000部）		URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL 令和8年6月公表予定

事業概要：「みかさ果樹団地（仮称）」整備プロジェクト事業

継続

申請者	北海道三笠市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	228,400千円 (178,900千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	梅園の再生による地域活性化を目指した「梅園の再生」と、ぶどう・りんご園場＋醸造用設備を備えた「ワインファーム」から成る「みかさ果樹団地（仮称）」を造成するため、中核となる事業者を誘致し、人材確保、移住、企業など多岐にわたるシナジー効果の発揮に繋げることを目的とする。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・「みかさ果樹団地（仮称）」整備プロジェクト実施に向けた取組みとして、梅園の再生に向けた取組みやワインファーム造成に係る助成、ぶどう・りんごの試験栽培等を行う。 また併せて、市内農業従事者数の増加を図るため、市内農業等をPRするイベント及び付随する施設整備を行う。					 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ・梅園の再生（補助金）5,000千円 園地再生に係る改植助成（梅）、梅工場再開に向けた整備に係る助成を行う。 ・ワインファーム造成（補助金）70,000千円 園地造成費に係る助成を行う。 ・試験栽培（ぶどう、りんご）（補助金）2,000千円 ぶどう（市民農園）、りんご（農業法人）の試験栽培に係る助成を行う。 ・市内農業PRイベント（委託料） 3,900千円 ・市内農業関連施設整備（工事請負費）20,000千円 (委託料) 5,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	① 年間農業産出額（＋70百万円） ② 農業従事者数（＋10人） ③ 果樹団地に入居する農業従事者数（＋10人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年6月公表予定

事業概要：三笠版DMOの持続的発展のための「三笠周遊」観光地域づくり事業

継続

申請者	北海道三笠市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	275,336千円 (103,086千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・北海道内では特に超高齢化・過疎化が進む中、地域内すべての「観光事業」を集約化することで、地域ならではの価値や魅力を十分に活かした新たな取り組み・高付加価値化を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 地域の自然や歴史資源を活用したジオパークを中心に、教育や観光振興を推進。特に、「マナビ旅」や観光協会の活動を通じて、地域の魅力を発信し、観光客の滞在時間延長や地域産品の高付加価値化を目指し、行政・産学官民が連携し、持続可能な観光地域づくりや新たなコンテンツの開発に取り組む。 また、交通アクセスの課題を克服し、地域の魅力を広く伝えるためのマーケティングや施設整備を進める。					   	
	【R8年度事業 経費内訳】 【ソフト事業経費】 ○DMO推進事業 ・各種イベントの開催（市内で開催する観光イベントの負担金） 8,000千円 ・道の駅の機能向上 1,500千円 ・市内来訪者に対するアンケート調査 1,100千円 ○ジオパーク推進事業 ・ジオサイトの維持管理 5,000千円 ・ジオパーク推進協議会の活動費用負担金 28,336千円 ○特産品開発事業 ・地域の事業者と連携し新たな特産品開発に向けた実証作業及び販売 5,000千円 【ハード事業経費】 ○市内観光施設整備事業（三笠鉄道村施設整備） 37,150千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における観光消費額（+5.7億円） ②ツアー商品等参加者数（+750人） ③三笠ファンクラブ数（+450人） ④「三笠版DMO」でコーディネート業務等に取り組む専門人材数（+1人） ⑤三笠高校卒業生が、飲食店等の開業や観光地域づくりに取り組む人数（+1件）					URL ※交付金の具体的用途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年6月公表予定

事業概要：厚床ふるさと館整備事業

新規

申請者	北海道根室市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	918,489千円 (216,608千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	本事業は、地場産業である酪農を直接支援するものではなく、酪農をはじめとする地場産業を支える人材・担い手が地域に関与し続けるための基盤を再構築する取組である。本施設が、交流・体験・学びを通じて、地域内外の人材が接続される拠点として機能し、人材循環を生み出すことで地場産業を下支えすることを目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 人口減少・高齢化の進行により、地域活動の担い手不足や交流機会の減少が顕在化し、結果として定住・Uターン・IJターンの阻害要因となっている厚床地域において、多機能型複合施設「（仮称）厚床ふるさと館」を整備する。交流を起点に人材循環を生み出すことで地場産業を下支えする。 安心して暮らし続けられる生活基盤を整え、地域コミュニティの持続性向上と地場産業を支える人材の定着・循環を図る。					 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・建設準備工 樹木伐採伐根、支障物撤去、敷地造成 17,669千円 ・本体整備工（2か年のうち1年目） （仮称）厚床ふるさと館整備 [建築／電気／機械] 198,939千円 合計 216,608千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①本施設を起点とした関係人口の定着・Uターンにつながる人材関与数（+30人／年） ②地域外参加者を含む交流・体験プログラム参加者数（+30人／年） ③講師・運営補助・企画協力として役割を担った人数（+20人／年） ④交流ホールおよび土間空間の年間利用者数（+5000人／年） ⑤交流・体験プログラム実施回数（+15回／年） ⑥施設運営に参画する外部人材数（+10人／年）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.nemuro.hokkaido.jp/lifeinfo/kakuka/shiminfukushibu/seikatsukankyau/oshirase/15231.html

事業概要：千歳市 長都駅前 遊びと学びの複合施設整備事業

新規

申請者	北海道千歳市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	154,873千円 (154,873千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	本事業により、市の子育て環境が整備され、まちの魅力が向上することで、地場産業の担い手となる若年層の人口増に寄与する。また、近隣市町の住民をはじめとした交流人口の拡大、地域経済における消費拡大につながり、さらなる市民の暮らしの安定を実現する循環の構築を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 駅周辺の民間施設を活用し、子育て世帯、若年世帯を中心とした、誰もが心地よく滞在できる子供の遊び場、勉強スペース、居場所づくりなどの交流活動の拠点として整備する。移住者を呼び込み、市民の「生活の利便性」と「まちの魅力」を高め、さらなる活気あふれるまちづくりを目指す事業。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・複合型交流施設の整備 施設整備 154,873千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①住基人口における20～39歳人口の推移（+226人） ②こどもの遊び場の利用者数（+9.6万人） ③アンケートでの満足度（子どもの遊び場）（+88%） ④施設周辺地域における人口推移（+964人） ⑤こどもの遊び場の利用者数に占める市外の利用者数（+4.8万人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年度12月公表予定

事業概要：保育園留学を軸とした過疎地魅力化プロジェクト

継続

申請者	北海道深川市					初回採択回	令和7年度第2回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	47,720千円 (15,395千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	過疎地域において全国共通の課題である少子高齢化・人口減少は本市にとっても例外ではなく、生産年齢人口の減少と少子化が進行することは避けられない状況である。そのような現況と推測があるなか、今後の人口減少を踏まえ、未就学児などを育てる現役子育て家族をターゲットに事業効果を本市に還元させる事業を展開することにより少子化に歯止めをかけ、更には長期的な関係人口を構築し続けていく中で経済流入を促し持続性を確保していくことが必要であることから、地域内のあらゆる資源の価値を感じてもらい、深川市のファンとなる仕組み（中長期滞在や二拠点居住を促進するプログラム）を実装することで、関係人口の創出と、地域経済の活性化を目指す。令和7年度はプログラム構築、試験的実装を行い、令和8年度は本格的運用、地域資源コンテンツの打ち出しを行うことで、認知拡大を図るもの。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 保育園留学および小学生留学は、主に都市部に住む子育て世帯をターゲットに、1～2週間子どもを本市内の保育園や小学校、学童で受け入れることで、家族で中期滞在していただく、子ども主役の暮らし体験である。子どもはのびのびとした保育や教育環境を提供している本市の保育園や小学校、学童に通い、親はテレワークや地域の様々な場所に足を運び、本市を満喫していただく。主人公となる子どもの非認知能力の向上を図るだけでなく、外国人保育人材をリクルートし、多言語・多文化を密に感じさせることで、視野を広げ、感受性豊かな子の成長に寄与する。留学家族を含む食に付加価値を求めるユーザーを対象に本市の「農業と食」を、生産現場から消費者の手元に届くまでのストーリーと共に提供（ガストロノミーツアー）することで、本市との関係性の深化を図り、保育と食の両側面から魅力を伝え、コアなファンづくりを行う。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ①保育園留学事業運営経費委託料：8,325千円（2園体制） ②小学生留学事業運営経費委託料：3,300千円 ③ガストロノミー事業運営経費委託料：2,200千円 ④滞在先（市営住宅内装）整備費：1,570千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①関係人口や交流人口の増加数（+49組） ②滞在日数（+514.5日） ③地域への経済効果（+617万円） ④市営住宅の利用数（+39.2件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.fukagawa.lg.jp/cms/section/kenkofuk/aajrae0000001qui.html

事業概要：地域DMO設立による「地域の稼ぐ力」創出事業

継続

申請者	北海道富良野市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	138,211千円 (73,791千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・不足する来訪者データを取得し、マーケティングに基づく年間平準化した誘客を目指していく ・新たに設立する地域DMOがデータに基づく戦略展開を行い、国内外来訪者からなる国際観光都市の実現を目指す ・事業者や次世代人材の確保・育成を後押しすることで、来訪者の受入環境を整備する						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・DMO形成の準備を進め、年度内に設立をし、旅行者動向調査などを行い、戦略策定に向けたデータを整備する。また、多様な価値観に触れる機会創出に資する教育支援を行う。 ・DMOが統計データ、市内観光事業者及び観光客が求めるニーズから戦略を策定し、事業を推進していくために官が事業の全体調整とサポートを行い、金融協会等が経営面でのアドバイスなどを行う。					 オールシーズン「滞在型」の国際観光地へ	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・データ整備 来訪者の動向データ調査、データ分析 3,300千円 観光顧客データ利活用の取り組み 2,772千円 ・観光をマネジメントする組織（司令塔）による持続可能な観光地づくりの推進 一般社団法人ふらの観光振興機構（ふらの版DMO組織）による持続可能な観光地づくりの推進 65,791千円 ・インバウンド対応整備、人材育成による受入環境整備 市内受入事業者が行う受入対応支援 500千円 演劇的手法を活用したコミュニケーションにより、多様な価値観をもつ人々と協力できる子どもを育てるワークショップ 1,238千円 地域文化に触れる機会の創出 190千円						
主なKPI	①観光消費額（+4,500円） ②インバウンド宿泊延べ数（+6,000泊） ③地域DMOが関わる旅行商品企画の売り上げ（+400千円） ④インバウンド再来訪意向（+16%）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.furano.hokkaido.jp/life/docs/812304.html?cat=/life/machizukuri/sougoukeikaku/ https://f-tourism.org/

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

事業概要：柏陽地区複合施設整備事業

継続

申請者	北海道恵庭市						初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度						期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,854,301千円 (720,964千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業	✓		
目的・効果	・当該地区に子どもが集まることができる施設が無いことや、高齢者人口割合が高く、地区中心部への公共施設集約が望まれていることから、複合施設整備によりコンパクトシティの推進と地域交流の場の提供を図る。 ・機能維持を主眼とした施設統廃合の推進に図り、長期的視点をもって将来の財政負担の軽減・平準化のための公共施設の適正配置を実現する。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 老朽化した市営住宅建替集約により発生した余剰地に複合施設を整備する。また、本施設と一体的な公園設備や周辺の道路拡幅事業等を実施する。							
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 柏陽地区複合施設整備費 ・施設設計 (2か年中2年目) 78,804千円 ・施設整備工事 (2か年中1年目) 470,034千円 ・外構設計 (2か年中2年目) 11,757千円 ・駐車場設計 (2か年中2年目) 4,340千円 ・外構整備工事 (2か年中1年目) 25,687千円 ・駐車場整備工事 (2か年中1年目) 11,229千円 ○インフラ整備事業 柏陽地区複合施設敷地内の公園整備 ・公園設計 (2か年中2年目) 15,132千円 ・公園工事 (2か年中1年目) 46,472千円 下水道事業】 ・振替工事 57,509千円							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①柏陽地区の人口増加 (+296人) ②施設利用者数増加 (+4,838人) ③柏陽地区住民の継続的居留意識 (+1.5%)						URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年度9月 公開予定

事業概要：石狩PRIDE（愛着×誇り×幸せな暮らし）向上プロジェクト

旧制度（推進）

申請者	北海道石狩市	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R8年度	期間中の総事業費 （カッコ内はR8年度事業費）	151,532千円 （22,960千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	・住民が地域の活動を容易に知ることができる環境をつくり、地域コミュニティへの関わりを通じて生まれた、人のつながりによる街への愛着を醸成する ・地域資源を活かした街の自慢となる特色を作り、住民の街への誇りや愛着を醸成するとともに、街に賑わいをつくり、住民の定着や新たな居住者の誘導を目指す		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 地域とのつながりを深めるために、講座や活動発表の場を設けて人々の交流を促進し、歴史研究やスポーツイベントを支援する。さらに、街の魅力を市民や外部に伝えるために、デジタルコンテンツや地域資源を活用したイベントを企画し、観光や地産地消を推進して地域の誇りを高める取り組みを行う。これらの活動により、地域のつながりと魅力の両面から街づくりを進める。 【R8年度事業 経費内訳】 ○人のつながりが街の愛着につながるまちづくり ・講座開催経費（講師謝金、会場費等）2,320千円 ・発表の場確保事業（補助金、会場費等）3,200千円 ・スポーツ交流イベント開催（講師謝金等）1,600千円 ○街の魅力が街の誇りとなるまちづくり ・デジタルコンテンツ作成（委託料）3,500千円 ・イベント開催経費（委託料、広告料等）6,000千円 ・特色づくり事業（負担金、補助金等）4,840千円 ・パンフレット作成（委託料）1,500千円		
	文化芸術交流 歴史 人のつながり 活動発表 スポーツ交流 観光 自然 まちの誇り 魅力発信 食 街の自慢できる魅力を知り、まちを誇りに思える 地域コミュニティへの関わりが活発になり、街がもっと好きになる 街への愛着や賑わいが生まれることで、住民が定着		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①転出者数の抑制（+125人） ②文化・スポーツ事業の参加者数（+1,250人） ③石狩市に住み続けたいと感じる市民の割合（+25.0%） ④デジタルコンテンツアクセス数（+400,000件）		URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL https://www.city.ishikari.hokkaido.jp/shisei/shiseiunei/1001914/1003646.html

事業概要：石狩さけの子プロジェクト

継続

申請者	北海道石狩市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	245,178千円 (81,726千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	30代～40代のファミリー層の転入増により、その子どもたちが更におとなになったときに、石狩市に住み続ける好循環を生む。様々な事情で石狩を離れることになっても、もう一度戻ってくる場所として魅力を伝えられる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 将来にわたり石狩市で安心して住み続けられるよう、必要な啓発活動やセミナー・講演、支援を実施するほか、持続可能な交通体系や医療体制の整備による環境整備を進める。また、子どもたちが石狩市に住むことに安心感を持つことができるようこどもの権利に関する事業を行い、子育て世代が石狩市での子育てを安心してできるような環境を整備する。これらの取組により、若年層が様々な事情により石狩を離れることになっても、もう一度戻って来たい、住み続けたいと思えるまちづくりを進める。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○若者が将来にわたり石狩市に住み続けられる安心感醸成に関わる事業 ・市内企業のPRや事業継続支援（負担金、委託料）650千円 ・持続可能な交通体系や医療体制の構築（負担金等）60,600千円 ・安全な生活のためのセミナー、啓発活動（委託料等）700千円 ○安心して子育てができる環境整備に関わる事業 ・こどもの権利に関する事業（報償費、需用費等）1,776千円 ・園による保育士確保への支援（負担金）18,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①当該年度内で30歳～49歳を迎える人の社会増（+30人） ②市内認定こども園・保育所等の利用定員（+20人） ③「石狩市が子育てしやすい環境だ」と思う人の割合（+10.5%）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.ishikari.hokkaido.jp/shisei/shiseiunei/1001914/1003646.html

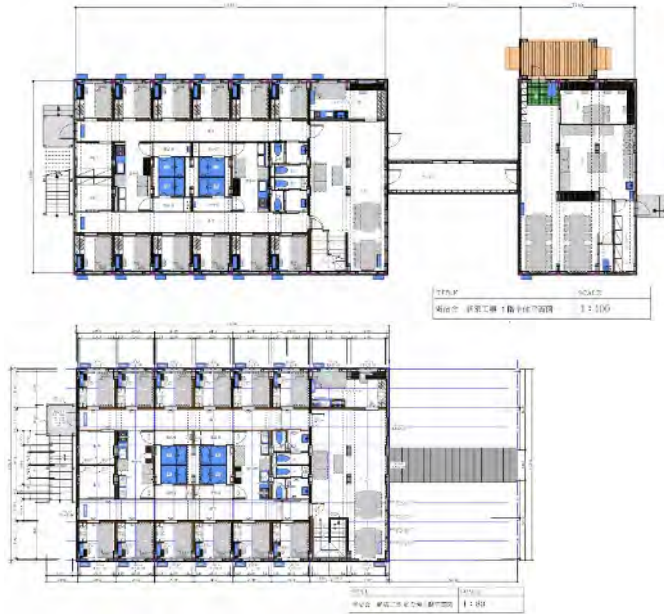
事業概要：トマト共同選別施設の整備に伴う地域拠点整備事業

継続

申請者	北海道北斗市						初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R8年度						期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,733,827千円 (1,664,530千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業			
目的・効果	北斗市の基幹作物の1つであるトマトの共同選別施設を増築し、指定管理を行う予定の新函館農業協同組合圏内のトマト集約拠点とする計画。長期間のリレー出荷を強みに産地優位での取引が可能となり、トマト生産者の農業所得向上につなげることを目指す。選別施設内の経験値を要した作業を機械化することで、作業に従事するハードルが下がり、今までよりも就労しやすい環境となることから、農業就業人口の増加を目指す。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 トマトの共同選別施設を増築し、稼働させることにより、これまで小規模な複数の施設で分散に行っていたトマト共同選別作業が1か所に集約化され、取扱量増加や施設運営コストの圧縮が可能となる。また、出荷時期が異なる周辺自治体（森町、知内町、木古内町、七飯町）産のトマトを全て本施設で選別することとなるため、北海道道南地域のトマト集出荷拠点施設として、今までよりも長期間の出荷が可能となる。						 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○トマト共同選別施設 ・建築物本体工事 1,138,269 千円 ・建築物と不可分な設備工事 525,800 千円 ・完了検査手数料 461 千円 合計 1,664,530 千円							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①トマト生産農業者の平均農業所得 (+57.22万円) ②農業就業人口の増加 (+100人) ③野菜の年間取扱高増加 (+4.55億) ④契約に基づく安定的な出荷先増加 (+22箇所)						URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年7月公表予定

事業概要：地域留学生徒居住施設整備事業

新規

申請者	北海道松前町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	429,770千円 (429,770千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	本事業は、地域未来交付金を活用し、北海道松前高等学校の全国募集による入学生を受け入れるための学生寮を整備するものである。これにより町外からの若年層の流入を促進し、若者滞在人口の確保と地域への新たな人の流れを創出する。教育を契機とした人の流れを創出し、将来的に地域経済や地場産業を支える人材の基盤形成につなげ、地域に根差した産業の持続性を下支えることを目的とする。地域産業の維持・発展に不可欠な人材の育成及び関係人口の創出を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 松前高等学校への全国募集に対応する学生寮（寄宿舎）を整備することにより、町外からの生徒の継続的な受入れを可能とし、若年層が一定期間本町に居住し、地域と関わりながら生活する環境を構築するものである。 入寮生は在学期間の3年間を本町で過ごすことから、地域住民との交流や地域活動への参加を通じて本町との関係性を深めることが期待される。在学中に形成された地域とのつながりは、将来的なU・Jターンや関係人口の創出を目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業経費 ・地域留学生徒居住施設を整備 収容定員24名 鉄骨造2階建て延べ床面積575.496㎡ 施設整備 429,770千円 (建築410,032千円、備品購入11,268千円 工事監理委託料8,470千円)						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①自宅からの通学が困難な地域からの松前高等学校入学者数人数（延べ）（+48人） ②寄宿舎入寮者数（延べ）（+48人） ③寮生の地域活動参加回数（延べ）（+750回）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年度10月公表予定

事業概要：廃校を活用した地域活性化交流拠点施設整備事業

継続

申請者	北海道知内町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	766,210千円 (7,355千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	廃校となる小学校を町立知内高等学校に町外から通学する生徒用の宿舎として活用し、地元定着に向けた就労体験等を通じて、将来の新規就労者や地元定着率が高まり、人口減少の抑制に寄与することが期待される。 スポーツ合宿としても施設利用を図ることで、更なる交流人口の拡大が期待される。 高齢化率50%を超える限界集落地区の新たな拠点施設として活用することで、多様な人材の流入や地域の活性化、災害時等の避難施設として活用が期待される。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 限界集落地区の廃校となる小学校を町立知内高等学校に町外から通学する生徒用の宿舎として活用するとともに、スポーツ合宿の拠点施設としても宿泊型練習施設として利用促進を図る。 また、当町でも参加している「地域みらい留学」（一般社団法人地域教育魅力化プラットフォーム主催）の情報発信を強化し、首都圏等の学校説明会を実施する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・地域みらい留学の登録料：2,100千円 ・首都圏等でのPR費用:4,400千円 ・外部講師謝金：855千円（スポーツトレーナー、イベント講師など謝金）						
主なKPI	①この施設を通じた移住定住の延べ人数（+12人） ②施設利用者の延べ人数（+24,180人） ③合宿の誘致数（+42団体） ④高校の満足度（+23%）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.shiriuchi.hokkaido.jp/chosei/keikaku/sogokeikaku.html

申請者	北海道森町					初回採択回	令和8年1月募集	
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 （カッコ内はR8年度事業費）	25,300千円 （6,500千円）	
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業			
目的・効果	・ナラ枯れの拡大局面に備え、森町が主体となってミズナラ資源の調査・DB化を進め、重点管理と年間供給可能量（上限）の整理により、計画的な利活用と安定供給の基盤を整備する。 ・交付金期間中は研究（試作・実需評価）により洋酒樽の仕様を確立し、工程の標準化（SOP化）と担い手育成を進めることで、バレル事業部による販売拡大（12→24→48樽/年）と町内雇用（1→2→3人）につながる体制を構築する。 ・体験・見学の機会を造成し関係人口を拡大することで、地域の食・文化・観光と連動した需要を育て、売上・体験収入・雇用を通じた地域経済への波及（地域内付加価値の増加）を実現する。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本事業は、ナラ枯れ拡大局面を見据え、森町が主体となりミズナラ資源の調査・DB化を進め、重点管理と年間供給可能量（上限）の整理により、計画的な利活用へ転換する基盤を整備する。あわせて、2025年7月の三者協定の枠組みを活用し、試作・実需評価を通じて洋酒樽の仕様確立と工程標準化（SOP化）、担い手育成を一体的に推進し、（株）ハルキのバレル事業部による販売拡大（R8:12、R9:24、R10:48樽）と町内雇用創出を図る。体験・見学により関係人口を拡大し、総合KPIは地域内付加価値増加額として地域への波及効果を検証する。なお、1樽0.75m³（丸太換算）を前提に必要な材積と資源制約の整合を確認し、道南圏の酒類産業と連動して着実に推進する					背景 ナラ枯れ拡大 価値低下・費用増 目的 被害前に把握 計画的に採伐 高付加価値化 取組（3本柱） ①資源量：調査・可視化・上限整理 ②試作：条件比較・品質検証 ③標準化：SOP・人材・引継ぎ 成果・KPI要旨 仕様絞り込み（評価） 品質／不具合DB 再現性製造→模展開 KPI：資源／未然防止 標準化／人材 体制：森町（推進・資源管理） ハルキ（製造） ミチタル（技術・検証） 実需者		
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・資源把握（北海道立総合研究機構 森林研究業務委託料）1,000千円、森町産洋酒樽開発（研究業務負担金）5,000千円、人材育成・体験見学（プログラム作成業務）500千円【計 6,500千円】							
主なKPI	①地域内付加価値額（+2,430万円） ②樽材の年間供給可能量（上限）（+36m³） ③研究（試作・実証）樽数（+60樽） ④町内雇用者数（+3人）					URL	https://www.town.hokkaido-mori.lg.jp/index.html	
						※交付金の具体的な使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL		

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

※交付金の具体的な使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL

事業概要：地場産業の付加価値向上を核とした産業拠点整備事業

新規

申請者	北海道八雲町						初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R9年度						期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,266,665千円 (119,532千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業			
目的・効果	・本事業は、八雲町が、民間事業者によるウイスキー蒸留所の整備を支援することにより、地域内付加価値の増加を図るとともに、地域に根差した新たな製造業の創出や地場産業の付加価値向上を目指すものである。 ・本事業の実施により、製造業としての雇用創出や関連産業への波及効果を生み出し、将来的な販路拡大や海外展開を通じて、地域経済の持続的な成長につなげることを目的とする。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 八雲町では、地域内付加価値が蓄積されにくい産業構造や製造業を中心とした雇用機会の不足といった課題を踏まえ、民間投資を活用した地場産業の育成を進める必要がある。このため本事業では、民間事業者が実施するウイスキー蒸留所整備事業について、拠点整備に係る初期投資の一部を支援する。本事業では、ウイスキーの製造・熟成に必要な生産設備を備えた蒸留所を整備するとともに、見学・情報発信等を通じて来訪者を受け入れる観光・交流機能を有する拠点施設として整備し、付加価値が町内に循環・蓄積する産業構造の形成を図る。							
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・設計業務・防災対策土工事・ウイスキー蒸留用初溜釜・再溜釜備整備 119,532千円							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域内付加価値増加額（+28億円） ②ウイスキー事業による売上高（+15億円） ③海外向け販売額（+15億円） ④交流・関係人口の創出（+31,500人） ⑤雇用創出数（+11人）						URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年7月公表予定

事業概要：地域活性化拠点施設（仮称）道の駅「北の江の島」整備事業

継続

申請者	北海道江差町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,999,818千円 (1,428,748千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	幕末に江差沖で座礁・沈没した開陽丸を再現した「開陽丸記念館」の管理棟を新たに「道の駅」機能をもった拠点施設として再整備し、物販施設での地場産品の提供やカフェコーナーなどの整備により、若者や子育て世代にとって魅力ある空間づくりと子育て世代のニーズに対応した天候に左右されない屋内遊具施設を備えた拠点施設による地域の活性化と観光交流人口の拡大を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 新たな道の駅の整備にあたっては、民間の創意工夫を最大限引き出すため、施設の設計・施工から維持管理・運営までを事業者が一体的に実施するD B O方式を導入して進めることとしている。 地元の農産物・水産物等を活用した新商品や飲食メニューの開発等による産業の高付加価値化や天候に関わらず子どもたちがのびのびと遊ぶことができる空間の整備より、地域の活性化を目指す。 また、町内や広域的な観光情報の発信による周辺地域の誘客向上を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・建築物本体工事 新たな「道の駅」整備 1,428,748千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①観光消費額（+5.7億円） ②道の駅の年間利用者数（+22.8万人） ③道の駅の年間売上高（+1.9億円） ④観光入込客数（+30.8万人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.hokkaido-esashi.jp/modules/chousei/content0535.html/

申請者	北海道厚沢部町	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	195,343千円 (24,615千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	・「認定こども園」「移住体験住宅」「ワーケーション」「ふるさと体験」をパッケージ化した親子ワーケーションプログラムである「保育園留学」をワンストップで提供する。 ・超長期的な関係人口創出のため、ワーケーション受入対象世帯の拡大や企業での利用促進（福利厚生等の利用）を前提としたアプローチを通じて事業の拡大を図る。 ・持続した関係人口の構築と新規利用者獲得のため、オンライン・オフラインでのふるさと体験により持続した関係人口の構築とPRを実施する。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 保育園留学をワンストップ窓口にて、ポータルサイトへの情報掲載・事前相談・問合せ対応、SNSによりPRするほか、未来へ持続可能なものとするため、生活支援策等を検討しつつ保育園留学体験事業を実施する。また、公営塾と連携し、中学生を対象とした地域魅力化事業を展開し中学生を持つ親のワーケーションを促進する。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ・募集ポータルサイト管理運用（委託料）11,660千円 ・ポータルサイト運用業務（委託料）1,320千円 ・企業連携サポート事業（委託料）2,508千円 ・保育園留学SNS管理運用業務（委託料）2,772千円 ・会議開催費に係る費用（需用費）30千円（旅費）30千円（報償費）100千円 ・事務費、運営費（旅費）50千円（需用費）30千円（役務費）50千円 ・人材育成事業費（旅費）300千円 ・地域魅力化コーディネーター（人件費）4,500千円 ・地域魅力化事業（委託料）792千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①ワーケーション利用延日数（年間）（+960日） ②保育園留学実施による経済流入額（年額）（+2,570万円） ③事業実施による関係人口の累計数（年度末実人数）（+850人） ④福利厚生等でのワーケーション利用企業数（年間）（+8社）	URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.assabu.lg.jp/

申請者	北海道厚沢部町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	166,392千円 (36,365千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野
目的・効果	・既存の観光資源の魅力を向上させることで、観光を通じた農業振興及び地域活性化を図る ・自然と一体となったアクティビティを創出し、道外・国外からの旅行客の体験型観光の需要に対応する ・メークイン発祥から100年を迎えることを契機としたイベントや商品開発を実施し、農作物の販路拡大を実現する ・農業体験を付加した観光を提供することで、新たなニーズを創出し、観光客獲得に向けた取組を推進する		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 官民連携の協議会が事業推進主体となり各団体間の連携を図り、観光振興事業を効率的に実施する。観光資源の魅力向上にあたり経営アドバイザーの活用やイベントを開催するほか、オートキャンプ場におけるアクティビティを創出し、観光に付加価値を与え利用者の拡大を図る。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ○道の駅の改修に向けた設計や基本構想の策定（R6完了） ○夢現プロジェクト実行委員会補助金31,148千円 アクティビティ創出、集客イベント開催、インバウンド誘致 販路拡大、大学連携、観光施設利用促進、研修事業 あさぎメークイン発祥100周年記念事業、商品開発 ○観光資源魅力向上事業5,217千円 経営アドバイザーの派遣等		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①地域における観光消費額（+3,656万円） ②観光施設の収支改善額（+1,000万円） ③入込客数：年間（+7,176人） ④新規雇用数（+3件）	URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL	https://www.town.assabu.lg.jp/

事業概要：持続可能な地域生活拠点整備事業～過疎地域のコンビニ多機能化～

旧制度（推進）

申請者	北海道厚沢部町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	19,942千円 (3,990千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	・コンビニ多機能化に対応する人員の配置により、新規雇用による定住人数を獲得する ・宅配サービスを展開することで、買物難民の解消及び高齢者の見守り体制を構築する ・再生可能エネルギーの活用により電気料金を削減、安定した経営を継続しながら、地域防災拠点としての機能を拡充する ・町の健康づくり事業で付与するポイントをコンビニで活用できる体制を構築し、町民の健康増進を図る		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 宅配と見守り体制が連動した体制づくりに向けた実証実験を実施する。また、整備したコンビニを防災拠点として活用するため防災用品等を整備するほか、持続的な経営に取り組むため、人材育成を行う。また、地域生活拠点の充実強化のため、未活用スペースをコミュニティスペースとして活用し、地域住民の交流の場を創出する。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ・宅配体制自立化業務委託料 3,020千円 自立化に向けた採算性・雇用を検証、定期の宅配を活用した高齢者の見守り機能を確立 ・持続可能な地域生活拠点整備協議会補助金 970千円 多目的スペース管理費、防災拠点訓練実施費用、事務費等		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①地域の人口・世帯数（+3人） ②販売額（年平均：年間）（+7,000万円） ③宅配サービスの利用回数（年間）（+450回） ④脱炭素を通じた経費削減（年間）（+1,550千円）		URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL https://www.town.assabu.lg.jp/

事業概要：子育て家族に向けたやさらかな定住・二地域居住促進事業

継続

申請者	北海道厚沢部町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	169,423千円 (65,934千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	海外の子育て家族の子どもをこども園で受け入れるプログラムを開発するとともに、受け入れに必要な外国語対応人材や生活サポートを行う地域コーディネーターを募集・育成し、移住・二地域居住の拡大を図る。 脱炭素先行地域づくりと連携し、EVによるカーシェアリング事業や脱炭素教育プログラムの開発・体験を行うことで、脱炭素に取り組む町の魅力を伝え、移住促進を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 海外未就学児のこども園受入体制を構築するほか、多世代異文化交流の場となる公園に遊具を整備する。また、脱炭素先行地域づくりと連携し、脱炭素計画及び移住情報等のPRを行う。大学と連携した脱炭素教育プログラムの開発やEVカーシェアリング事業を二地域居住者や一時滞在者へ展開するための実証実験、地域新電力会社が契約を締結した顧客へ付与するポイント制度の構築を行う。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・募集ポータルサイト管理運用委託料 4,620千円 ・外国語対応人材募集及び人材育成委託料 2,420千円 ・移住者向け生活サポート委託料 1,452千円 ・こども住民票ポータルサイト管理運用委託料 2,640千円 ・脱炭素×移住促進PR委託料 2,530千円 ・教育プログラム創出・体験事業委託料 6,050千円 ・脱炭素×移住促進地域ポイントシステム管理運用委託料 7,000千円 ・脱炭素×移住促進交通対策カーシェア事業委託料 6,500千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①移住者数（二地域居住含む）（+48人） ②滞在延世帯数（年間）（+100世帯） ③滞在延日数（年間）（+3,000日） ④地域への経済効果（年間）（+3,000万円） ⑤事業実施による雇用数（年間）（+5人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.assabu.lg.jp/

事業概要：「農産物×子育て」の魅力化で集う道の駅あさぶエリア再編整備事業

継続

申請者	北海道厚沢部町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,168,472千円 (1,012,174千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	道の駅物産館を改築し、農産物等販売面積及び駐車場を拡大するとともに、チャレンジショップ開設（テナント）及び休憩スペース拡充により観光消費額の増加を図る。 道の駅にキッズコーナー、デジタルアミューズメントコーナー、屋外イベントスペースを新設し魅力化を図るとともに、子育て世代の冬期間の遊び場を確保することにより、道の駅の来客数増加を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 道の駅エリア活性化協議会を設置し、エリア整備及び改築後のイベント開催・キッズスペース開設等、多様な意見を集約し、新たな道の駅物産館を整備する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・協議会運営経費（補助金） 1,041千円 ・道の駅物産館活性化事業費（補助金） 2,750千円 ・技術職雇用経費（報酬等） 6,314千円 ・イベント開催経費（委託料） 2,200千円 ・企画調査・基本構想策定経費（委託料） 3,608千円 ・備品購入費補助金（備品購入費） 3,157千円 ○拠点整備事業 ・建築物整備 643,100千円 ・設備整備 285,474千円 ・備品整備 64,530千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域の観光消費額（＋6,800万円） ②旅先納税額の増（＋700万円） ③道の駅エリアイベント新規開催による集客数（年間）（＋2,300人） ④道の駅物産館における就業者の増（＋7人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.assabu.lg.jp/

事業概要：奥尻島の未来を変える新しい共創観光プロジェクト

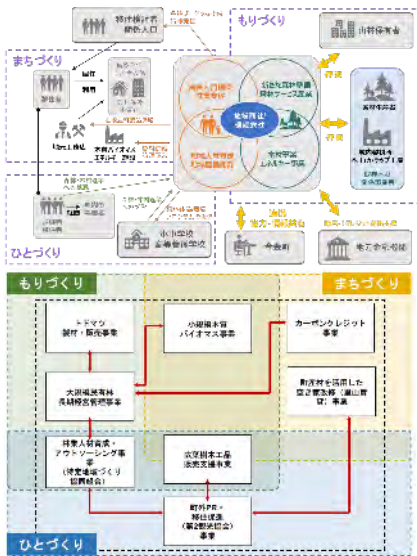
～ホテル建設×観光コンテンツ×観光プロモーションで創造する島時間～

継続

申請者	北海道奥尻町					初回採択回	令和7年度第2回募集	
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	2,094,700千円 (1,571,213千円)	
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業			
目的・効果	・観光入込客数の減少が深刻である本町の観光産業の復活のため、以下の3事業により、「観光客受入体制の強化～観光客誘客の促進」を実現し、観光入込客数の回復を目指す。 ①ホテル建設（拠点整備事業） ②観光コンテンツ創出（ソフト事業） ③観光プロモーション（ソフト事業）							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 以下の3事業により、「観光客受入体制の強化～観光客誘客の促進」を実現し、観光入込客数の回復を目指す。 ①ホテル建設（拠点整備事業） ②観光コンテンツ創出（ソフト事業） ③観光プロモーション（ソフト事業）							
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業経費 ①大型ホテルの新設 施設整備（補助金）1,525,000千円（総事業費2,815,000千円） ○ソフト事業経費 ②観光コンテンツ創出 ・体験コンテンツ創出・人材育成・販売拡大（委託料）19,223千円 ・島巡り観光コンテンツ創出（委託料）6,990千円 ③観光プロモーション ・映像制作、インフルエンサー活用、うにまるくんIP強化（委託料）20,000千円							
主なKPI	①地域における観光消費額（+13.3億円） ②観光入込客数（+2.8万人） ③新設ホテル年間延べ宿泊客数（+6.4万人） ④観光関連産業新規従事者数（+70人） ⑤販売可能な観光コンテンツ数（+15商品） ⑥PRコンテンツにおける累計視聴数・リアクション数（+690万回） ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値					URL	令和8年度9月公表予定	
						※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL		

事業概要：林業6次産業化による持続可能な循環型地域づくり事業

継続

申請者	北海道今金町					初回採択回	令和7年度第1回募集	
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	49,940千円 (24,970千円)	
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業			
目的・効果	地域の貴重な資源である森林に着目し、林業6次産業化を起点として持続可能な循環型地域づくりを行う。帰郷者や移住者に魅力的な林業や木材産業での就労先を提供するとともに、森林・木材産業の売上拡大を実現し、もりづくりからまちづくり、ひとづくりにつなげ、循環型地域を目指す。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 地域の貴重な資産として森林に着目し、林業6次産業化を行う地域商社を設立し、地域商社が持続可能な地域の実現を目指す。補助金頼りではない森林経営・管理、またその実施体制について検討を行う。また、地域産木材の高付加価値化を図るため、商品開発や自然フィールドを活用したプログラムを企画し、販路拡大や地域への人の呼び込みを行う。さらに、小中学校や養護学校と連携した森林を使ったワークショップや木育事業を展開し、若者の郷土愛や地域への愛着を育てる。森林体験イベントや交流プログラムも企画し、人材育成や関係人口の拡大を図り、高付加価値の木材を地域内で循環させるため、空き家の改修や公共施設の木質化、木質バイオマスの利用も検討しています。これらの事業を実現するため、地域内外の事業者と連携しながら、必要な機能や体制を整える。							
	【R8年度事業 経費内訳】 ①地域商社設立準備業務 7,970千円（委託料） ②新たな森林経営・森林管理方法実施の検討 6,500千円（委託料） ③地域材・森林フィールドを用いた商品開発・販路開拓業務 5,000千円（委託料） ④森づくりに関する、人づくり、まちづくりの検討・実証業務 4,000千円（委託料） ⑤地域での林業6次産業化に向けた検討会議体の運営 1,500千円（委託料）							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①林業・木材関連事業への新規就業者数（副業人材を含む）（+2人） ②本事業に伴う移住者数（+3人） ③町内の森林整備面積（+3ha） ④本事業に伴う町産木材の使用量（+7m ³ ） ⑤本事業に伴う新規の森林整備面積（+1ha） ⑥各種プログラム・イベントへの参加人数（+70人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.imakane.lg.jp/gyousei/senryaku/post_4265.html	

事業概要：『共感』がつなぐ多様な連携による持続可能なまちづくり推進事業

旧制度（推進）

申請者	北海道ニセコ町	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	136,290千円 (32,300千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	まちづくり会社を中心とした多様な連携の推進体制の構築 環境を基軸とした多様な連携モデル事業の展開 連携創発をうむ『共感』形成に向けた「住民参加」と「情報共有」の実践		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 全国初の自治基本条例に基づく住民自治のまちづくりの実践、「環境モデル都市」や「SDGs未来都市」の取組など、ニセコ町がこれまで取り組んできたまちづくりに対し、町民に加え、町外のニセコファン・ふるさと住民や企業からいただいている『共感』について、モデル・先導となる環境を中心とした多様な連携事業の積み重ね・発信によりその価値を高め、さらなる『共感』による多様な連携が自発的に創発され、好循環に結び付ける。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ○多様な連携の推進体制の強化、運用改善（委託料）6,400千円 ・推進体制の運用、効果検証 ・共感形成に向けた持続可能なまちづくりの取組・成果広報 ・企業版ふるさと納税の活用促進、パートナーシップ登録の運用・マッチングなど ○環境を基軸とした多様な連携のモデルとなる取組の展開 ・効果検証、連携事業に向けた普及促進等（委託料）25,900千円 ・官民連携による環境対策・移住促進対策の強化・拡充、成果広報 ・多様な連携に向けた普及促進活動、人材育成 ・EVを活用したシェアリングサービスの構築・導入など		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①パートナーシップ登録件数（+21件） ②企業版ふるさと納税の件数（+30件） ③ふるさと住民制度の登録人数（+110人） ④ニセコ町の総人口（+365人）	URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年度6月公表予定

事業概要：持続可能な「ニセコ共生循環の森林づくり」を実現する地域商社推進事業

旧制度（推進）

申請者	北海道ニセコ町	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	104,250千円 (20,000千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	農林水産分野
目的・効果	・官民連携による林務体制の再構築 ・ニセコモデルの森林整備機能・交流型木材加工施設（遊休施設利活用）の試験運用 ・町産材製品のマーケティング、循環の始動、関係人口創出を見据えた体験プログラムの開発 ・林業・木材加工従事者の人材確保・育成など		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ○持続可能な森林経営、町産材の循環利用事業の運営 ・森林整備、計画、管理事業の林務一部移管業務の運営 ・地域循環機能システムの試験導入、交流型木材加工施設（遊休施設利活用）の試験運用 ・町産材製品のマーケティング、販売促進 ・町産材の循環利用拡大に向けた次期交流型木材循環施設の計画づくり ・関係人口創出を見据えた、森と共に暮らす体験プログラムの提供拡販 ・持続可能な林業・木材加工業に関わる多様な人材育成 ・民有林への持続可能な森林経営支援 【R8年度事業 経費内訳】 ・地域資源活用に向けた地域商社事業運営委託料（委託料） 20,000千円		
	森林 作る、守る 1 森林環境の整備・保全 共生循環を確保した森林環境づくりに 向けたインフラ整備に着手します 商品 使う、得る 2 森林資源の利活用 ニセコ産材の価値が高まる 利活用方法の拡充を図ります 「ニセコ共生循環の森林づくり」を目指した、 変化の時代に、多様性をもって、共生し続け る道を追求する森林づくりへの第一歩 使う、得る 空間 4 森林空間の活用 森林の価値を高める利活用コースを開発し、 取組みに着手します 人材 育てて、支える 3 事業者の育成 多様な能力と志や意欲を提示し、 事業家の増加・育成に努めます 伝えて、支える 情報 5 情報の発信と参加 ニセコ町全体で 情報発信し、参加を促します 事業1 森林関連業務の 需給整備事業 事業2 森林関係事業者 サポート事業 事業3 木材活用 事業 事業4 森林空間利活用 事業 事業5 ニセコ森林 高付加価値化 事業 事業6 林務代行事業		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①林業関係の新規就業者数（+7人） ②町産材原木使用量（+450m³） ③新規商品開発数（+7件） ④体験・交流プログラム参加人数（+160人）		
	URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL	令和8年度6月公表予定	

申請者	北海道ニセコ町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	239,422千円 (93,940千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野
目的・効果	・観光業を中心とした産業DXの推進 ・シェアリングサービスの積極的活用 ・地域ポテンシャルの引き上げ ・上記3つの取組による地域の持続性向上		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 デジタルマップの活用やデジタルプロモーションの展開など観光業をフックとした地域産業のデジタル化を推進するとともに、カーシェア・タクシーシェアといったシェアリングサービスを積極的に活用することで、地域課題である人手不足を補完しながら、増加する観光ニーズに対応する。また、地域資源の発掘磨き上げにより、観光地としての魅力向上を図る。	取組イメージ 観光DX サービスの効率化 専門人材・学生サポーター（地域活性化企業人など） 地域資源活用最大化 サービスの補完 企業連携、新技術導入（スタートアップ、連携協定、企業版ふるさと納税など） 地域の持続性向上 共助の拡大 シェアリング普及 シェアリングサービス 暮らしの向上 地域力の引上 地域内連携（町、商工会、観光協会、町内事業者、町民など） 地域資源の発掘・魅力化	
	【R8年度事業 経費内訳】 ・デジタルマップの活用（補助）4,000千円 ・デジタルプロモーションの展開（補助）15,400千円 ・カーシェアリング（使用料等）4,488千円 ・タクシーシェア（負担金）14,400千円 ・人材、雇用等シェア（補助金）12,000千円 ・地域資源開発及び商品化、観光拠点機能強化（委託料）15,110千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①観光消費額（+37.5億円） ②商工会会員数（+9会員） ③カーシェアリングサービス利用件数（+400件） ④ふるさと納税件数（+450件）	URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年度6月公表予定

事業概要：「若者×地域魅力化」交流拠点施設整備事業

継続

申請者	北海道ニセコ町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,357,359千円 (44,940千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	ニセコ町立北海道ニセコ高等学校の学生等の移住を受け入れ、地域住民や地元企業など、あらゆる世代のステークホルダーが交流でき、シナジー効果を生み出すミックスコミュニティ拠点を整備し、地域全体で若者を応援・育成していくことで、域内の就業機会の創出や世代交代の促進を図り、若者層のシビックプライド醸成と人口流出の抑制、更には地域の持続的な魅力化発展につなげていく。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 若者の移住体験を受け入れるとともに、若者同士や地域との交流を充実させ、ニセコ高校の放課後起業クラブや校内留学施設と連携しながら、アントレプレナーシップを持つグローバルなキャリア形成を支援していく。 新設する施設性能については、ニセコ町の厳しい気候条件に適應でき、かつトータルランニングコストも配慮した高断熱・高気密の住性能を確保する。また、人・性別など様々な属性から扉の利用制限ができる入退室管理・監視システムを導入するなど、セキュリティ面も配慮した施設整備とする。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業経費 ・外構工事 44,940千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①域内起業・就職件数（+100件） ②若者（10代～30代）の移住者数（+65人） ③施設入寮者数（+310人） ④ニセコ町立高校入学者数（+300人） ⑤Stars UP（放課後起業クラブ）加入者数（+100人） ⑥サテライトキャンパス利用者数（+10人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年度6月公表予定

事業概要：自助強化と共助拡大による持続的なエッセンシャルサービス構築事業

新規

申請者	北海道ニセコ町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	113,900千円 (18,900千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・デジタル技術の導入などを積極的に進め、町の特徴・強みである「自ら考え、行動する」自助の強化、まちづくりのルーツである「相互扶助の精神」に基づく共助の拡大を図る。 ・地域の暮らしに必要なエッセンシャルサービスについて、その持続的な展開を目指していく。このことを多分野・総合的に実施していく。 ・地域の暮らしを守り、暮らしの質を高め、ひいては地場産業の担い手の確保に結び付けていくことを目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本事業は、「地域未来戦略」における「エッセンシャルサービスの維持向上」にあたる取組であり、また、住民自治によるまちづくりを実践してきた本町の特徴を生かし住民の暮らしの質を高め、持続する地域を実現していくための基盤を構築し、総人口の増、働く環境の向上などを図り、地場産業振興のボトルネックとなっている産業の担い手確保を底上げするものである。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・協議会の運営とプラットフォーム機能の検討・拠点施設の機能検討（補助金など）2,700千円 ・エッセンシャルサービスの拡充実証（委託料、補助金など）16,200千円						
主なKPI	①ニセコ町の総人口（+160人） ②住民アンケート調査「ニセコ町に対する思い」のうち、暮らしやすさに関する5項目平均割合（+8%） ③連携プラットフォームに参画する組織・取組数（+16件） ④デジタルツールの利用者数（+180人） ⑤関係人口（ニセコ町ふるさと住民登録者）（+80人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年度6月公表予定

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL

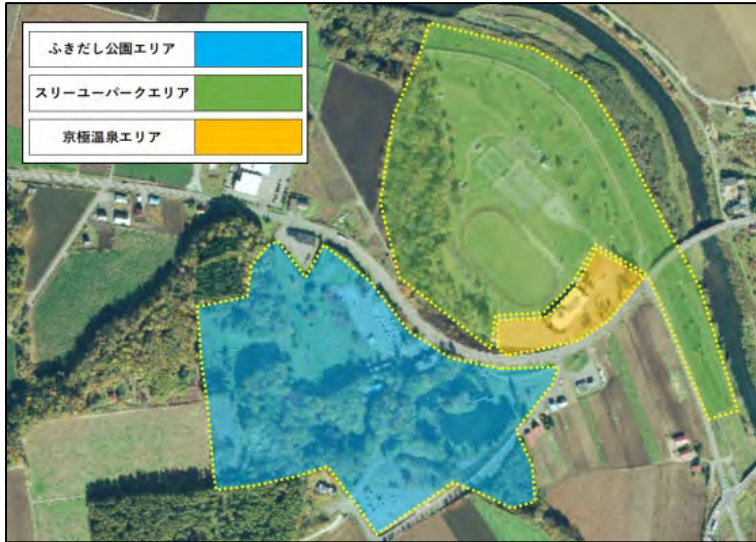
事業概要：共創パートナーシップ×地域産業育成 推進事業

新規

申請者	北海道ニセコ町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	89,500千円 (21,500千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・多くの町外企業等から提案いただける環境を強みに、町の方針との「共感」をベースにパートナーシップを形成し、地域に裨益する具体の取組を共に進める。 ・コーディネーターの配置や事業者支援制度を創設し伴走支援を行うことで、外部企業等連携の効果を地域内に広く波及させ、さらには地場産業間の連携にも結びつけていくことで、持続・成長する地域産業形成を図っていく。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・企業等連携に向けた構想・計画戦略の策定、実証フィールド調査 ・連携促進や導入効果向上に向けたコーディネーターの配置、事業者支援制度の創設 ・町外企業と地域企業、あるいは地域企業間の連携強化に向けたマッチングイベントの開催。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・共創パートナーシップの締結に向けた基盤整備（委託料など）11,000千円 ・連携協定に基づく事業実証・伴走支援（委託料、補助金など）10,500千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①商工会会員数（+21会員） ②町外企業との具体的取組を伴う連携締結数（+14件） ③町内企業の連携した取組、クラスター創出件数（+5件） ④企業版ふるさと納税件数（+15件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年度6月公表予定

事業概要：ふきだし再開発を核とした地域活性化拠点整備事業

新規

申請者	北海道京極町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	2,178,000千円 (73,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・周遊促進や滞在時間の延伸や新たな観光客の誘客 ・商工業者や農業生産者の郷土愛や誇りの醸成による持続的な地域産業活性化 ・地域の情報発信拠点及び地域住民と観光客の交流による関係人口の増加 ・観光地を日常的に利用促進することによる季節や観光客に左右されない安定的な経営や地元経済の循環促進						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本事業は、ふきだし湧水を核とした再開発を通じて、地域資源の価値を最大限に引き出し、産業・雇用・人口の好循環を生み出す基盤を構築することを目的とするものである。具体的には、ふきだし周辺エリアにおいて、観光拠点としての機能強化とともに、町民利用や事業展開を見据えた空間・機能の再構築を行い、将来的な官民連携による持続的な運営体制の構築につなげる。 あわせて、湧水や農産物といった地域資源を活用した新たな事業展開や高付加価値化の可能性を見据え、今後の民間参画や事業化を促進するための基盤整備を行う。これにより、観光消費額や滞在時間の増加、地域内雇用の創出、交流人口・関係人口の拡大を図り、最終的には地域経済が自立的に循環する持続可能なまちづくりの実現を目指すものである。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・地域価値創出に向けたランドデザイン構想業務（委託料）50,000千円 ・観光地域づくり法人基盤生成及び伴走支援（委託料）23,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における観光消費額（+3.2億円） ②観光客入込数（+20.1万人） ③拠点を核とした新規事業者創出数（+5件） ④新規雇用者（+10人） ⑤特産品開発数による売上（+1,000万円） ⑥再開発事業に対する町民の満足度（+70%）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年度6月公表予定

事業概要：京極サーモン陸上養殖事業

新規

申請者	北海道京極町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	311,075千円 (22,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・陸上養殖施設として施設を維持・活用し、地域資産を有効に活用 ・養殖事業により直接的雇用や、加工・販売など関連事業も展開 ・地域ブランドとして確立し、加工品やギフト商品の開発により、販路拡大・PR効果・観光誘客						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本事業は、京極町が有する豊富で良質な水資源について、その特性を踏まえた利活用方法を検討し、新たな産業創出につなげることを目的とするものである。 地下水の水量や水質、安定供給性等を踏まえ、どのような産業分野への展開が可能であるかを検討するとともに、事業化に向けた技術面および経済面の成立性を整理する。その検討の結果として、地下水の特性と親和性が高く、付加価値創出や雇用創出が期待できる分野の一つとして水産養殖が位置付けられ、サーモン養殖が具体的な手段として導かれることを想定。 旧町立小学校の遊休施設を活用した本格的な事業化や民間参入を見据え、基礎的な調査・検討を行う準備段階の取組を行い、地域資源を核とした持続可能な産業モデルの方向性を明確化していく。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・地下水利用可能性調査業務（委託料）22,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①売上高（+7,500万円） ②生産量（+50t） ③商品開発数（+3種類） ④ブランド化（+1ブランド）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年度6月公表予定

事業概要：ニセコひらふ地区シンボルゲート形成を起点とした持続可能な観光地づくりプロジェクト

旧制度（推進）

申請者	北海道倶知安町	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	73,661千円 (11,050千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野
目的・効果	閑散期の底上げによる観光の平準化 受入環境良化のための交流・広場空間機能整備 コミュニティ機能強化のためのエリアマネジメント 観光DXに対応したリゾート形成（スマートリゾート化）		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 通年型国際リゾートを形成し持続可能な観光地づくりを達成するため、観光の平準化、交流・広場空間機能整備、エリアマネジメント、2次交通対策、景観形成といった上記課題解決に資するべく、ニセコエリア最大のリゾート機能集積地であるニセコひらふ地区において最も人が集まり核となる「ひらふスキー場第1駐車場」を『シンボルゲート（＝シンボルとなる空間）』として形成を図る		
	【R8年度事業 経費内訳】 ・シンボルゲートの魅力向上に係る事業（委託料）8,250千円 ○新ウエルカムセンターに係る事業者公募選定 特定事業の評価・選定、公表を行い、募集要項を作成する。事業者選定委員会を運営し、民間提案等の審査を行い、パートナー企業体を選定する。 ・ICT/IoTを活用したエリアマネジメントに係る環境整備（補助金）2,800千円 旅先納税、先予約システム、データ収集プラットフォームといったスマートリゾート化に資するDMOの取組を支援。		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①旅先納税額およびふるさと納税を活用したクラウドファンディング額（+1,700万円） ②エリアマネジメント活動参加者数（+94人） ③エリア整備・マネジメントに係る住民ミーティング参加者数（+51人） ④観光客繁閑差率（+0.15）	URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.kutchan.hokkaido.jp/town_administration/matidukuri/2494/ https://www.town.kutchan.hokkaido.jp/town_administration/chihousousui/



事業概要：共和町道の駅施設整備事業

継続

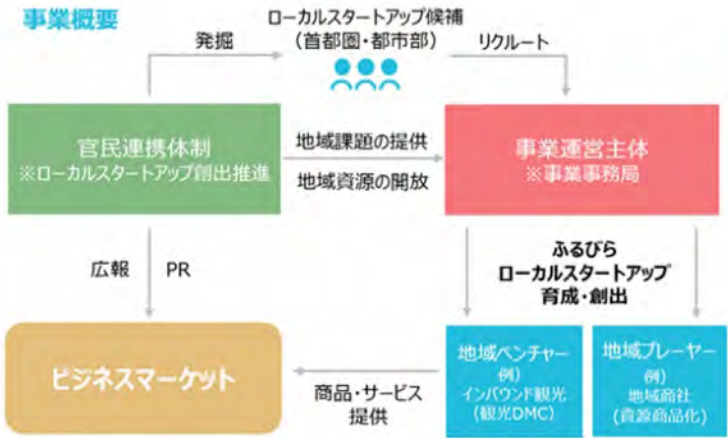
申請者	北海道共和町					初回採択回	令和7年度第1回募集	
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,987,781千円 (1,292,058千円)	
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業			
目的・効果	・物販、産直、レストラン、温浴施設、屋内遊戯施設、キャンプ場等の複合的な機能をもった道の駅を整備し、交流人口を拡大させることにより、観光消費額の増加を図る。 ・多機能な施設として、道の駅は地域の核となり、観光や農業振興、雇用創出など、幅広い面で地域活性化に貢献する。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 地域のにぎわい創出と多様な利用ニーズに対応するため、物販、産直、レストラン、温浴施設、屋内遊戯施設、キャンプ場など、複数の機能を一体的に備えた道の駅の新設整備を行う。 物販や飲食、屋内遊技施設等を整備し、交流人口の増加を図り、地域特産物の販売額や観光消費額の増加に加え、就労環境や子育て環境、生活環境の改善により地域の活性化を図り、人口減少を抑制していく。							
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 (交付対象事業費) 物販エリア、飲食エリア、屋内遊戯施設、温浴施設、事務所、受付エリア ・建設工事費（建築主体・電気設備・機械設備） 1,292,058千円 (交付対象外事業費) 情報コーナー、24時間トイレ、屋外倉庫、機械室 ・建設工事費（建築主体・電気工事・機械設備） 589,107千円							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①共和町の観光消費額（+3.2億円） ②共和町の観光客数（+31.4万人） ③道の駅の利用者数（+30万人） ④道の駅の売上高（+3.2億円）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年7月公表予定	

申請者	北海道共和町					初回採択回	令和7年度第2回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	90,449千円 (31,500千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	安心して農業を営むことができる地域を作り、農作物やジビエなどを特産品として販売することで、町の活性化に寄与する。 人材育成事業による関係人口の創出。 ジビエメニューの開発により、令和9年度開業予定の道の駅との連携を図る。 横展開事業である宮崎県延岡市と情報交換等を通じて関係性を深め、特産品や人材の交流を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 安心して農業を営むことができる地域を作るため、動物を人里に近づけない取り組みにより鳥獣被害を軽減させ、農業者の意欲減退を防ぐなど、基幹産業である農業を守り地域の活性化に繋げる。 また、それらの取り組みを担う人材の育成についても、人材育成事業や捕獲マップによる情報の共有などを通じて、人材の確保、技術の継承を進める。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業経費 人材育成事業 ・調査・指導（委託料） 3,000千円 ・講習・体験・わな仕掛け実践（委託料） 8,000千円 ・ジビエ講習（メニュー開発）（委託料） 1,000千円 追い払い機器実証 ・機材の設置作業及び検証（委託料） 11,000千円 ※ハード事業 対策機器開発及び整備 5,500千円 捕獲マップ整備事業 ・鳥獣出没・捕獲マップ運営（委託料） 1,000千円 捕獲行動記録 ・ベテラン捕獲従事者の捕獲行動を記録 2,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①関係・交流人口（+170人） ②人材育成事業の参加者数（+80人） ③鳥獣対策による住民満足度（+70%）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年7月公表予定

事業概要：古平町ローカルスタートアップ創出・育成事業

旧制度（推進）

申請者	北海道古平町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	51,000千円 (19,000千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	・強い産業づくりを担う人材や事業者を持続的に生み出し、産業と雇用の創出を実現し移住定住者の増加を図る。 ・経済を回していけるようなローカルスタートアップやその候補人材を発掘・育成する基盤を構築し、継続的にローカルスタートアップ等を創出・輩出する流れをつくる。 ・継続的にローカルスタートアップを創出することで循環型の地域経済が機能する持続可能な町を目指す。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 古平町の将来を見据え、強い産業づくりを担うローカルスタートアップを生み出し続けるために官民連携の事業推進体制を構築し、誰もが地域を創造するようなビジネスにチャレンジできる環境を整備するとともに、ローカルスタートアップ候補の発掘から育成まで一貫した支援を行う。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ①民間主導による事業推進体制へのシフト(委託) 3,300千円 ・事業推進体の運営、民間主導体制移行 ②ローカルスタートアップ候補の発掘・獲得の自走化(委託) 3,798千円 ・人材発掘、獲得のメソッド化や人材発掘ネットワーク体制の構築 ・より効果的なWebサイトやオウンドメディアの運用、民間主導シフトに向けてのメディア運用再構築 ③ローカルスタートアップ候補の育成プログラムの確立(委託) 2,640千円 ・ケースメソッドプログラム(OFF-JT型)、ビジネス構想づくりを行うプログラム(OJT型)の自走化(事業から輩出したローカルベンチャーの先輩が後輩を育成する循環型の育成制度を構築) ④循環型のローカルスタートアップ立ち上げ支援体制の構築(委託) 1,584千円 ・ビジネスプラン設計から事業の磨き上げまでのハンズオン支援体制を構築(先輩ローカルスタートアップがメンターとなり、後輩ローカルスタートアップを伴走支援する体制を構築) ⑤ローカルスタートアップを創出し続けられるエコシステム構築(委託) 3,168千円 ・ローカルスタートアップ輩出コミュニティの設置・運営(送り出したローカルスタートアップとそれを目指すローカルスタートアップ候補との交流、マッチング等のビジネスコミュニティ創出と仕掛けの実施) ⑥事業推進事務局(委託) 4,510千円 ・事務局運営		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域へのUIターン数(+120人) ②ローカルスタートアップ数(+9人) ③ローカルスタートアップ候補となる人材数(+27人) ④首都圏・都市部からのポテンシャル人材獲得数(+50人)		
	URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	http://www.town.furubira.lg.jp	



申請者	北海道余市町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	172,468千円 (57,859千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野
目的・効果	・一次産業の生産力強化及びデジタル技術の導入による作業の効率化を図る ・食関連コンテンツ（食・酒・歴史）を有機的にストーリーとして結びつけて高付加価値化された商品の造成、PRを図る ・酒蔵やレストラン、文化施設における環境整備を進め、特に富裕層や近隣のニセコ圏に滞在するインバウンドの誘客促進を図る		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 人口減少下においても、将来に渡って持続可能な一次産業の基盤を強化し高品質かつ安定的な食資源の供給を図るべく、食と酒と文化を有機的に一体のストーリーとして連動させ、豊富な食資源のPRを行うとともに、食環境を整備・提供により美食を求める来訪者を呼び込み、ガストロノミー産地の形成を図る。 ----- 【R8年度事業 経費内訳】 ・農水産資源の生産力強化に要する経費（補助金、委託料） 17,700千円 ・環境整備、旅行商品及びインバウンド向けプロモーションの実施（補助金）13,000千円 ・イベント開催費用（負担金）4,500千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①観光消費額の増加（+184.3億円） ②年間宿泊客数の増加（+80,900人） ③ふるさと納税寄附件数（+126,792件）		URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL https://www.town.yoichi.hokkaido.jp/chousei/jouhou/machihitoshigoto/index.html

事業概要：域内事業者の稼ぐ力を育む域外商流構築事業

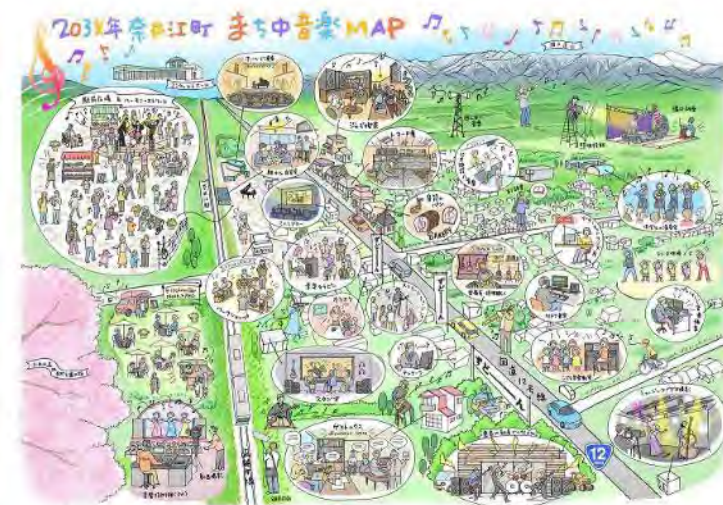
新規

申請者	北海道赤井川村					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	43,769千円 (13,255千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	本事業では、同計画の政策の柱「人のつながりを広げ、価値を育む」を具現化すべく、新たな総合戦略の重点戦略「自然資源を活かした小さくとも価値ある地域経済の創出」に取り組む。具体的には、まちづくり法人を中核として、都市圏バイヤー等との「域外商流」を開拓し、意欲ある事業者の高付加価値化を伴走支援することで、地域に「稼ぐ力」と「投資の好循環」を取り戻す。これにより、単なる素材供給や通過型観光から脱却し、都市圏の人々とビジネスや共感で長くつながる「関係人口」を拡大させ、人口減少下でも村民が誇りを持って豊かに暮らし続けられる持続可能な地域モデルを確立する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 意欲的域内事業者に対し、都市圏商流構築イベントという実践機会を提供し、個別に経営計画・伴走支援を行うことで、新商品開発・販路開拓・新規事業構築・ビジネスマッチングなどの挑戦を促し、手ごたえのある実績を生み出し、稼ぐ力を育む。						
	【R8年度事業 経費内訳】 【事業推進体制構築】 ・運営体制構築・事業進捗管理：2,816千円 ・移動交通費：968千円 ・情報発信、事業WEBサイト構築・運用：594千円 ・事業拠点利用料・通信費：880千円 【事業者への個別伴走支援】 ・個別支援ニーズ調査：1,100千円 ・個別支援パッケージ開発：1,760千円 【都市圏商流構築】 ・都市圏とのマッチング：4,752千円 ・都市圏とのマッチングフォロー：385千円						
主なKPI	①域内事業者と域外事業者とのビジネスマッチング数(+8件) ②域内事業者の新プロジェクト創出数(+5件) ③域内事業者同士の事業連携数(+6件) ④産官学連携事業の提携学校法人数(+2校)					URL ※交付金の具体的用途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年度3月公表予定

事業概要：誰もが躍動し 寄り添い集う 全世代共奏のまちづくりプロジェクト

旧制度（推進）

申請者	北海道奈井江町	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	573,131千円 (105,008千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	・誰もが活躍できる就労の創出と定住促進 ・誰もが健康で、安心して暮らせるまちづくりの確立 ・地域資源を活かしたまちづくり		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 奈井江町が目指す「生涯活躍のまち」の実現に向け、全世代が居場所と役割を持つ「共奏コミュニティ」を形成する。具体的には、短時間就労を支える「しごとコンビニ」の構築、空き家活用や新交通システムの検討、音楽を核とした交流創出、デジタル技術を駆使した健康づくりや都市部との関係人口創出を推進する。多様な主体が連携し、一人ひとりが躍動できる包摂的な地域づくりを展開するものである。		
	【R8年度事業 経費内訳】 「しごとコンビニ」・「しごとチャレンジ」推進事業（委託料）：37,410千円 ○「しごとコンビニ」の運営、登録者のスキルアップ、起業サポートシステムの運営、チャレンジショップの試験運用等を実施する。 全世代型コミュニティ・「まち中音楽」活躍システム構築事業（委託料）：16,210千円 ○自治会等の地域運営組織の試験運用、ワークショップによる人材育成、コンチエルトホールを活用した音楽イベント等を実施する。		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①活躍人口数（+3,701人） ②関係人口及び移住・定住者数（+1,213人） ③起業件数（+22事業所又は人） ④ふるさと納税寄付額（+4,250万円）		
	URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL		
		www.naie-kyousou.net 交付金の具体的使途・実施体制・効果検証 令和8年度7月公表予定	



事業概要：由仁町移住・交流拠点施設整備事業

継続

申請者	北海道由仁町					初回採択回	令和7年度第2回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	40,420千円 (39,670千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	町内の空き家を、研修・交流スペースが併設された移住体験住宅として改修・整備し、移住希望者が農業体験などを通して地域の方と関わりながら当町の生活や魅力を実感できる移住体験や、将来を担う大学生や民間企業の若手職員が、ワークショップ等の活動を通して地域住民と交流する当町の移住・交流施策の拠点施設とすることで、新たな移住者や関係人口の創出に繋げる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 町内の空き家を改修し、研修・交流スペースが併設された移住体験住宅として整備する。研修スペース・交流スペースは、当町と連携協定を結ぶ大学の学生が、当町のまちづくりに関わるための仕組みとしてのワークショップを実施する施設などとして活用し、利用者が地域住民と交流する拠点施設として活用する。 事業により、大学の学生や民間事業者の若手職員など将来を担う若い人材が当町のまちづくりに参画することで、当町の持つ地域資源やまちの魅力を知るきっかけづくりとするとともに、実際に体験することで、一体的な定住の取組、将来的に当町の移住・定住に繋がる取組を、効果的に行うことができる。					【移住・交流拠点施設】 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ ソフト事業経費 拠点施設において、大学が参加するワークショップ及び移住体験事業を行うための経費を措置する。 ・ワークショップの実施経費（資料作成、外部人材招聘経費）50千円 ・移住体験事業の実施（委託料）100千円 ○ 拠点整備事業経費 移住・交流拠点施設の改修経費 ・施設整備 39,520千円					【大学生と町職員との意見交換会】 	
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①当町への移住者数（+8人） ②移住相談件数（+14件） ③大学との連携事業数（+2事業） ④施設利用者数のうち利用者アンケートにおいて「当町への関心が高まった」と回答した者の数（+723人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年6月公表予定

申請者	北海道長沼町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	270,580千円 (10,200千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	本町の市街地区に位置する地域資源の1つ「ながめまコミュニティ公園」において、長沼町の地場産業である「観光」と「食」を活かした新たなコンテンツを造成する。施設の再編整備を行い地域資源の高付加価値化を図ることで、郊外に訪れている観光客と、近隣まで訪れているファミリー層を市街地区への誘引し、町内の交流人口を増加させ、地域経済の活性化と地域の魅力向上を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ながめまコミュニティ公園において、郊外に訪れている観光客と近隣まで訪れているファミリー層を市街地区への誘引し、町内の交流人口を増加させ、地域経済の活性化と地域の魅力向上を図ることを目的に、以下の整備を実施する。 ・マオイオートランドの拡張 高稼働率の「マオイオートランド」の更なる利用促進と団体需要への対応。 ・ドッグランの整備 新たな利用者層（愛犬家等）の誘客促進と温泉とのコラボイベントの実施。 ・複合遊具、斜面遊具及び広場整備 子どもの遊び場のシンボル整備。ファミリー層の誘客促進と交流の場の造成。 ・屋外BBQスペースの整備 特産品「味付きジンギスカン」や地元野菜等を通じた地場産業「食」のPRと消費拡大。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ながめまコミュニティ公園を観光拠点として再編整備 ・実施設計費 10,200千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における観光消費額（+1.61億円） ②施設利用者数（+2.6万人） ③施設の収益（8.7千万円） ④長沼町観光入込客数（+22.9万人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年7月公表予定